

業務について、専門職と事務の担当チームが、課題を充分に共有できないこと。又、同じ専門職の中でも、自分の業務に追われて、相談や、指導を受けられないこと
業務について住民の立場を考慮して改善できない職場他係との関係
業務に多忙で時間内落ち着いて仕事ができない。片付かない
業務に追われ(特にケアマネ業務)予防活動について、じっくり関わる時間があまりない
業務に追われ、気持ちにゆとりがなくなっている時
業務に追われる毎日で、本来の予防活動が充分に分析・実施評価できていないこと。(保健分野の所属でありながら、福祉、介護保険等あらゆる面で、業務に関わっていかねばならない)
業務に必要な研修と時間と人員配置がされるよう、自らが努力しなければいけない立場に置かれていますが、複数の問題が、錯綜する中で、泳いでいるようです。
業務の改善や体制の検討を提案しても予算的な面で制約され実現に結びつかない時。個別支援においても、国の制度的な制約で十分なフォローにつながらない点など。
業務の共有化が図られないこと
業務の実施については充実感があっても、効果が十分見えないところ
業務の多様化に対し、人員配置etcの整備がすすまない(仕事量が増え、内容もよりむずかしくなる一方)
業務の内容が幅広く、体系的に整理できていない点があるとも感じている。そのため全てにおいて、中途半端になっている気がする。整理できる業務は整理し、何を重点施策として行っていくか、もっと考えてほしいと思うことがある。ケースのフォロー(母子、結核、精神、難病)、定例行事の実施、健康診査の実施と事務処理、地域づくりの活動…毎日こなすのが精一杯で深く考えたり見直したりアセスメントしたりできていない
業務の内容のポリシーが一環しない時に思う
業務の複雑さにも疲れを感じていた
業務の範囲がはっきりしない事がある。どこまで、どの程度やったら良いか、不明確で達成度がわからない時がある。
業務の範囲が広すぎて、1つのことに集中できない
業務の範囲が広すぎて浅くしかとり組めないこと
業務の範囲が多岐にわたる、広く深く、頭をきりかえがなかなかできなかつたり、この分野をもう少しつめてやってみたくも思っているが現実的にはなかなかむずかしいこと。町の上層部の人達にもっと活動現場を実際にみてもらいたい。
業務の評価が出来ていない。又、数の面で評価されるためやりっぱなしも多。業務の整理が出来ていない。業務の幅が広く(母子→成人)専念できない、ロスも生じる。家庭の事情で残業も難しく、家にもち帰ることもしばしば
業務の評価や見直しに十分にできないまま、作業におわれている。現場の改善提案に対する回答が十分でない
業務の方向性がはっきり打ち出されていない
業務の目的、根拠が理解、納得できない時にも、行わなくてはならない時。
業務の量が多く、大変である。
業務の量の負担が大きい。常識に欠けると思われる行為をした時の上司の対応が適切でない。やらなければそれで済む人もいるということが大いに不満
業務は多忙ですが上司が業務内容を十分理解できて下さり人間性のある職員と仕事が出来。何も不満はありません。最高の職場です
業務をこなさなければならない。事務をする時間が少ない
業務をこなすのがいっぱい負担を感じる。記録ができない
業務をじっくりゆっくり見直す時間とマンパワーがないため満足感が得られにくい。
業務をしていても、他の業務のことも気になり、じっくりと仕事に取り組めない時
業務をすすめていく上で関係者間でなかなか統一された考えをもてない時
業務を進める上で十分話し合い意見を聞いてもらえる雰囲気の中で仕事をしている。個人的な不満というより不安はあるが。
業務を遂行するにあたって、“とりあえず”と安直に実施しようとする上司
業務を整理して住民や世論から必要とされる(母子・虐待・精神など)仕事に力を入れていきたいのになかなかできない
業務を展開していく上で人員不足。業務の負担がかなり大きく残業が増えた。(人員が補充されないこと)
業務計画が適切にされていないこと。(H15年4月の異動で配置されたため計画にたざざわっていない)保健師の自己満足の計画?！地域との協働など考えているのが疑問。
業務時間内で自己研鑽のための時間がとれない
業務時間内に仕事が終わらないこと
業務自体の不満はないが、仕事上生じる人間関係で不満を持つことがある。1.自分の物差しで、判断してしまう上司との仕事。2.感情論で、仕事の優先順位を決定してしまう者との仕事。3.理解してもらえないことは分かっているが、個々の人間性を理解しようとしてもしない者との仕事。をする時に強く感じる。
業務上しかたないストレスだと思ふ
業務遂行能力を認めてもらえない時
業務多忙であるにも関わらず、周囲から評価されにくい(問8-2と同様)
業務多忙な為、じっくりと個別ケースをふり返る等はできにくい
業務担当と関係ないところで事業が決められた
業務担当の内容で、周囲に協力を願うことが多いが、遠慮等から上手く分担することができず、自分でかかえこみがちになり、負担となってしまうことが多い。(事業の立案と実施全体が自分の担当という認識がある)
業務担当制であるため、自分の担当業務以外はよくわからない。入職してから成人担当であり、母子担当業務がわからないばかりか、事例に携わる機会が少ないため母子の相談をまれに受けると憊てる。(業務担当制の弊害)
業務担当制になってから、個別対応、ケース対応の業務が出来なくなってきました。保健師活動の原点、根本に返りたいですが、日々業務に追われ、他の担当者(母子担当や高令者担当)の業務内容をよく知らないままで毎年、すぎてしまいます。このままでよいのか疑問を抱きつつ…。そのためにスタッフ間のコミュニケーションが薄くなってしまっています。
業務内容が広く、集中してしまうとき
業務内容が事務的なことが多くなった
業務内容が増え、日常業務におわれ、一つの事業をじっくりと取り組めない。ケースについても、多くの時間をかけられず、納得のいく対応ができない。予算削減で研修会等の参加ができず新しい知識を得る機会がなくやりがいを感ぜない。
業務内容が多く、ゆとりを持っていない時間で、あくせくしている時
業務内容が多く、一度に集中した時。
業務内容が多すぎて、残業も多い土日祭日も携帯電話で拘束され自由がなく精神的に疲労してしまっている
業務内容が多岐にわたり、量的的にも限界以上のことをしているが、それに見合うような給与体系になっていない(技術職特に女性の技術職は課長職になることが少なく、それによって課長職の給料表を使えず、給与が頭打ちになってしまっている)
業務内容が多岐にわたりそれぞれにまんべんなく力をそそぐことが難しい。集中力が散散になってしまうこともある。業務内容、業務量に比して保健師の人員が少ないと思っている。また、最近は乳幼児虐待等緊急性が高く、困難なケースが増えてきているので、併せて健診、教室その他の多くの業務を実施することは負担が大きい。
業務内容が多様で集中してひとつの業務を検討実施できないとき
業務内容が明確にならないまま、配属され日々精神の仕事が主となりがち傾向にあるが、それを、看護の本来の仕事ではないというように仲間、上司、先輩(同職種)に言われる時。周囲より、認められない忙し負担感の多い相談があるにもかかわらず。
業務内容では特にありませんが、事務職に比べると休暇がとりやすいこと
業務内容と組織権限が釣り合っておらず、何か新しいことを提案しても、なかなか前にすすまないことが多い。管理職が業務内容をあまり把握していない(?)ため、方向性が見出しにくく、担当者まかせの傾向がある
業務内容について保健師間で意見を出し合う機会が少ない。個人のスキルにまかせられる部分が多い
業務内容によって“これは保健師の仕事じゃない”と言う保健師の声を聞く時。私のやっている仕事は、これを言う人にとっては保健師の仕事じゃないことを常にやっているんだという気持ち。仕事内容は専門性や技能だけで決まるものではないはずなのに、主任クラスの人が大声でイライラしながら言っていると、全体の志気にもかかわってくるのに、と思う。こういう人が新人にも大きな影響を与えようと思うと保健師の仕事の広範囲さをもっと認識してほしいと思う
業務内容に事務の部分が多いこと。(保健業務担当の事務職がない)
業務内容のかたよりの大きい。職場の人的環境が良くない。
業務内容の激的な変化(社会的に)所属内の担当が細分化されており地域との関わりがしにくくなっている。
業務内容や量について適切に評価されていないと感じることがある。(人員配置面など)
業務内容を見直して改善したいと思っても、毎日の業務に追われ、その時間がとれない。又、考えても、上司に、却下されてしまう。

業務内容を兼押し評価を求めても出先機関の保健業務のため主幹課へ反映されない。また、情報があまり流れてこない。個人で情報収集しても限界がある。
業務内容を他者(特に他部署で働く保健師)に、理解してもらえない時
業務配分が課内でもバラつきがあること。
業務範囲が広すぎ、専門的な知識も技術も不足しているので対応しきれない自分自身に不満がある。
業務評価がどうしても質的評価より量的評価の方が先行しがちであること
業務分担当が不均衡、感染症から福祉まで幅広い。また福祉に関する一つ一つの相談は内容も完全解決に結びにくいものが多く、いつ爆発するかわからないまま継続管理していく為、管理ケースは増え精神的にも重い責務がのしかかり負担が大きい。しかしやりがいがあるとも感じている
業務分担であり、一人で抱えこむこと、業務に追われ、事業評価などでできていないこと。研修旅費もカットされ、自らの力を高められるような講師にも来て頂けない(講師料が組めない)反面、人寄せパンダのような100万円単位のタレント系の講師には予算がつくこと。職員のメンタルヘルス対策があまりこうじられないこと(当局から…)合併をふまえた話し合いが、スムーズに行きそうにないこと。(皆、自らの主張を通そうとしてぶつかる。)
業務分担でない仕事を上司の命令でなく、同僚から押しつけられる(事務職から保健師の方がいいからというただそれだけで)
業務分担制であるため、自分では解決できない課題があった時等、他の人の協力を得られにくい
業務分担制にしているはずが、グレー部について押しつけあいになってしまう また同職種間の連携が係・課をまたぐと、とりにくい
業務分担制になっているのはよいが、同じ高齢者担当でも老人保健、老人福祉、介護保険、在介とありお互いがお互いの現状を十分に知らない。町としてどうとりにくんでいくのが共通認識されていない。
業務分担制の業務であり自分の事業のみ深くかかわりすぎ他の事業、他の保健師活動が見えにくい他の仕事に対して、自信がもてなくなってくる
業務分担性となり活動そのものはより専門的に深く掘り込まれてきたが、係の専門職が一体となり協力しあうムードはなくなってきている。「私の仕事はここまで」という姿勢で、仲間がいると一人では展開していけない事業については分担表を作成し“お願い”しなければならぬ負担がいつもついてまわっている。私自身は、事業や雑の仕事は「私がやればスムーズに実施できる」と感じたら「この部分は私が」と自然と声に出、気がついていたら動いているという姿勢が好きである。「みんなで作り上げた仕事」が少なくなっている
業務分担性となり活動そのものはより専門的に深く掘り込まれてきたが、係の専門職が一体となり協力しあうムードはなくなってきている。「私の仕事はここまで」という姿勢で、仲間がいると一人では展開していけない事業については分担表を作成し“お願い”しなければならぬ負担がいつもついてまわっている。私自身は、事業や雑の仕事は「私がやれば、スムーズに実施できる」と感じたら「この部分は私が」と自然と声に出、気がついていたら動いているという姿勢が好きである。「みんなで作り上げた仕事」が少なくなっている
業務分担量に不公平さを感じたとき。
業務別担当による他事業の不明瞭さ
業務量が多すぎるとき。保健事業に関わることよりも、行政組織の中で事務的な業務に追われすぎている。ゆとりと何かに取り組んだり、考えたりする暇がない。事務的な業務(予算編成等)を1人でやっているのだから責任が重すぎて不安感を常に感じている。保健事業への関わりが減り、まわりにとりのこされている感じがする
業務量からみて スタッフの数が足りない
業務量が稼働以上になった時
業務量が極端に多くなる時
業務量が広く、職員数も多く、やっていた保健師数も減っており常に人手不足。人材がしにおわれている 仕事はへらしたいが、整理できず増加する一方 どこかで英断していかなければならぬだろう 休暇がとれない。
業務量が時期的によって多く時間外勤務になること
業務量が重なり多くなった時。自分で余裕をもてなくなった時。
業務量が少ないこと。一般事務職にくらべて、業務量が少なすぎる。
業務量が人により、差があるように思う。
業務量が多い
業務量が多い
業務量が多い 事務に負われていることが多く、事業の組み立てなどにもっと時間をかけた
業務量が多い、主査としての役割が、十分果たされていない
業務量が多い。事業をきっちり評価したりケースについてももっと丁寧に関わっていきたいが、それが充分できていない。保健師としての仕事、役割を他職種に理解してもらうことが難しい
業務量が多いが組織としての協力体制がない(他係間とか、同係内の係員間で)マンパワー不足などの根本的な解決の見通しが、上層部から業務のよい評価を得られていないということでもあると思うから、よって、自分が必須と思う業務展開ができない
業務量が多いこと(他者がどうかはわからない)
業務量が多いわりにはどの業務をどのように整理したらいいかわからない仕事だし、それを改めて実感する時。
業務量が多い時など時間配分が悪く、中途半端になってしまう時。育児休業について、離職も専門職も限られているなか、育児をとると、職員補充もないため、残ったスタッフへの負担は大きい。だが、育児ができ推進されている背景を考えると、とった方が、家族のみだと、思う。休むことで、マイナスな面もあると思うが、長い目でみれば、保健師としても、プラスではないだろうかと思う。
業務量が多く、1つ1つにじっくり取り組めていない
業務量が多く、1つ1つのことが、不完全なまま終わってしまうことがある。もう少し、じっくりと取り組みたい
業務量が多く、いつも時間に追われている。不安感がつきまとう
業務量が多く、ケースの対応がおろそかになった時
業務量が多く、こなせない時
業務量が多く、一つ一つの仕事をじっくりと取り組む事が難しい。保健師が必ず関わる必要がある業務と、そうでない業務の整理が必要と感じる。
業務量が多く、勤務時間内に処理できず、残業になることが多い。
業務量が多く、個人としての時間がもてない時。現在の職場では仕事が終わってからの時間が短く、物理的に困難。身体的に負担。
業務量が多く、自分が行っていることへのふりかえりをすることができない。準備期間がないため時間におわれてしまう
業務量が多く、自分の思うように仕事が進まないこと(相談を受けたり、判断を求められることが多い)
業務量が多く、処理するのが大変な時がある。
業務量が多く、中途半端になってしまうこと
業務量が多く、評価、ディスカッションする時間、機会がもてない。市の中の他の部署の保健師との連携がとれていない。このままではいけないと思うが、どのように進めていくのか、実際に余裕もない
業務量が多く、目の前の仕事に追われ、すべき仕事が増え山積みになっていく。仕事の評価や方向性を考える余裕もなく、これでもいいのか疑問を感じる
業務量が多く、目標通りに、仕事が進まず、積み残しの仕事が多いことがストレスになる
業務量が多く、落ち着いて考えたり、取り組む余裕がないこと。
業務量が多すぎて仕事をこなしている状態 中途半端な仕事になっているようにも思う
業務量が多すぎて、残業をやむを得ずしないといけないこと…
業務量が多すぎて、時間内におさまらない。ていねいにやりたくても、時間が足りず、つい雑になりがち。
業務量が多すぎて、焦らせてしまい、納得いくまで深く考えられなかったり、適切な判断ができなかったのではないかと感じてしまうとき。
業務量が多すぎて1つ1つが丁寧に手がかけられない 合併で本来の住民サービスが維持できなくなることを慮し
業務量が多すぎて忙しい時に困難事例が重なった時しんどい
業務量が多すぎて仕事をしてもすまず、片づかない
業務量が多く時間外勤務が多いこと
業務量が多く全ての業務が広く深く終わってしまっている。深く追求したい事柄や学びたいことなどにまで考えがまわらなく空しさを感じる。業務の上で事務職出身の上司が専門的知識を持っていないのでそれにふりまわされること
業務量が多く多岐多様なため、ゆとりじっくり仕事に取り組めない
業務量が多く地域活動をする時間がない
業務量が多く地区活動を建設的にすすめられないところ ピアカウンセリングがない スーパーバイザーがない 意欲を高めていくような研修がすくないところ
業務量が多すぎて、きちんとやろうとするので、残業だらけ。でも子育て中なので、時間も限られてくる
業務量が多すぎて、人員が足りないこと
業務量が多すぎて、1つ1つこなすだけという状態で、かつ家に帰っても記録をかけたりに何かを持って帰って仕事する追われている状態に疲れる。
業務量が多すぎて、何もかも中途はんばいと思うこと
業務量が多すぎて、考える余裕がない時
業務量が多すぎて1つ1つの仕事をじっくりとできない時

業務量が多すぎてなかなかかからない
業務量が多すぎて目の前の仕事をこなすのに精一杯で、あっという間に一年が過ぎていき、事業評価をする余裕がない。介護保険要介護認定の新規申請者の調査も担当しており、自宅に持ち帰って記入している。他にも持ち帰りの業務が多く、子育ても思うようにいかない。
業務量が多すぎる
業務量が多すぎる
業務量が多すぎる
業務量が多すぎる。そして、その改善策を誰一人として考えて提案しない 無責任に他人に(部下に)仕事をふってくる上司がいる。
業務量が多すぎる。また、保健業務、介護保険認定調査、在介センター業務、ケアマネ業務等、多岐にわたるので煩雑過ぎる。住民のために、これだけの膨大な業務をこなしていること(忙しさ)が、事務職の人たちには理解されにくい
業務量が多すぎる。個別のケース対応が必要な場合も、事業をこなしながらでは、ケースに十分な時間をとれない場合がある。
業務量が多すぎる。全てが中途半端になっている。何が必要なのか、住民が何を望んでいるのかを見定めて整理すべき。
業務量が多すぎると感じる時
業務量が多すぎると時
業務量と優先度のかけ引き
業務量に個人差が大きい時がある(現在の職場ではそれはないが、以前からよく感じている)
業務量に差があっても、そのことについて上司に理解されない時。また、スタッフ間に、協力体制が得られない時。
業務量に差があること
業務量に差があると感じる。
業務量に差がある時 仕事に対して真剣にとりくむ姿勢があまりみられない人と一緒に仕事をする時
業務量に差がある時。(人によって)
業務量に対し、保健婦数が少ない。
業務量に対しての係員数の配置が適正でなく、係全体に負担がかかっており、それが、日々の仕事のすすめ方にも影響していること
業務量に対する人員不足を感じる時、また、その事により業務の非効率を感じる時。
業務量に比べ、保健師の数が少ない、事業を起きたいと思っても忙しい中では、あきらめてしまう
業務量に比べて、時間が足りないこと。事務量の多いこと
業務量の課内での違い
業務量の過重を理解されない
業務量の割に人数が少ない。本庁からはなれた場所で、保健師のみ配置となり、管理までほとんどまかされている。準備を行うことから後かたづけまでほとんど保健師(数名)のみで行っている。
業務量の増加に反して、職員は減少。
業務量の多さ、じっくり検討する時間がない
業務量の多さ、不公平を感じる時がある。地区活動に時間をとれないような業務、専門職としての活動を十分にできていない自分に対する不満など、日々自信を失っている。
業務量の多さから、他の保健師と話す時間が少ない(先輩保健師が忙しすぎる)(事業の目標、評価、ケース検討、私的なことも含めて)
業務量の多さと、チームワークの悪さ
業務量の不平等がある時
業務量の偏りがある時
業務量の片寄りがある場合
業務量は増しているが、スタッフ数が少なくなっている(介護保険の開始時期から)業務が忙しく、仕事がまわらないかんじになった時。
業務量は増加しているのに人数が増えず減少している事(人事担当者に話しても全体の職員数が減少しているの一言でおわってしまう)保健事業の保健師が1つの課内の1係でまわっているため、全体の把握が困難
業務量と考えると保健師の数が足りないと思います
業務量多い時
業務量分担について
業務連携の会議の場面等で、各部署や職場個々の違いが相互に十分理解されない時。
局の各担当から一方的に事業がおりてくること(事前に現場の意見を聞くという事がほとんどない)
勤務時間内だけでは、自分が行っている業務が終わらないこと。
勤務時間内には、できないことがある時(ex、仕事をしている、母親への連絡がつかない時)
勤務時間内に仕事が終わらない
勤務時間内に仕事が終わらないこと
勤務時間内に仕事が終わらないような業務をした時
勤務時間内に処理しきれない時 事務分担が多すぎる時 限らない業務に際し助言がない時
勤務体制について(土・日どちらか出勤、月曜休日)事業が組みにくい、疲れがとれない
急進を推進する事業が円滑にすすめられないこと。
緊急に対応が必要なケースがあっても、時間外だと子どもの保育園等の迎えがあり、同僚に交替してもらわなければならない、同僚へ負担をかけてしまう時
緊急に対応が必要なケースが度々あったとき。平常業務が滞ってしまう。
緊急に対応しなければならない事例があると、他の業務が全て後回しになり、その処理が大変である。
緊急を要する際の関係機関との連携の難しさ
緊急時の対応についての責任が重く負担に感じる。
緊急性のあるケース対応などがあり、業務が計画的にいかないこと。
緊急対応、医療機関がみつからないとき ケースへの対応が忙しく、担当事業の準備がすすまない。予算
緊急対応が必要な時に、書類提出を求められると困る。各自、担当業務があり集計等共有できない。集計等他の人もわかりやすく整理するためには、整理のための業務が増える。きちんとした仕事をしようとすると事務処理が増える。必然的に午後5時から朝上の仕事になり残業となる。
緊急対応ケースや困難ケースでも1人で対応する時がほとんど。
近郊の公立保育所に保健師が配置されておらず、情報交換等ができない。また初めての保育所内配置であり、定員も一人のため保健活動がなかなか進まない。
区としての方針がないまま、運営を実際に行う私たちに、全ての責任を押しつけられていると感じることがある。
区行政の中での評価が低い事
苦情の電話の対応
具体的な仕事内容はほとんどないが、保育所自体が公立で存続するか危ういところ
具体的にはありません。
係が一丸となって仕事ができない時
係として常勤がひとりのため、仕事上の悩みや相談など解決しづらい点
係に事務職が居なくなった(今年度から一職員数の大巾な減)ことで、事務量が多くなり、保健師としてしたいことが思うようにできなくなった(常に)。又、大きな市町の1つの課位の業務量がある係だと思いの、課長と補佐は私たちの係だけの上司でないため(国保係、診療所、訪問看護ステーションも所管)に、会議等への出席が他市町ではほとんど課長や補佐なのに私がいかなければならないことが時々あり、これは精神的にもかなり負担である。それから会議や研修会等に大きい市町ではいろいろな人が交替で出席するが、私たちの町の場合は私ばかり出席しなければならないことが時々ありたいへんである。(その分、2人しかいない部下の保健師にも負担がいつている)立場上、目に見えない仕事もけっこうあり、その日終そうと思った仕事が終わらなかったり、思うように仕事が進まないことがよくある。事務職では事務に専念できるから、すぐに終るような事務も、保健師の場合は健診など事業の合間にしかできないため進まないということになる
係のなかでの専門性、ポジションが自分自身定まらない
係の体制が大きく、担当外の職員がどのような業務をしているのかわからなくなるとき。係内でも情報交換できるといいと思う。
係の中で事務量の占める割合の多さに対し、事務職の配置がない事
係の直属の上司が不在状況。・係員が少ない中で、事業を実施し、係長業務を行わなければならない。・本来の自分の仕事の見直し等やケースとの関わりが、おろそかになりがちであること
係の定数が減っているのに、仕事量が増えているため、残業が多くなり疲れる。保健師主査がもう1人いれば、1人の主査に集中することくできるのと思う。また、仕事内容を深めたり、見直しをすることが時間的に難しい

係員、係長、課長、次長、所長ラインの中で、上司の指導がうまく受け入れられず、仕事をすすめる上でぎくしゃくしている 筋の通った助言でなく、その都度尺度の違った意見で係がふりまわされ、仕事の意欲も低下している
係員が一般事務の人のみで専門的知識を要する結核・感染症について、精神的に弱い職員を2〜3人かゝって、仕事以前の問題で毎日ストレス一杯です。危機が発生したらどうなのか、大変だった人員配置です。
係員の不足(仕事量に対して) 保健師の稼域外の仕事をせざるをえなくなること
係長がすべき仕事を課長に依頼される。例、諸回答弁資料etc
係長であるため部員(係員)の仕事の失敗があると責任転嫁されることがあるため。特に事前に注意しておいたにもかかわらず修正してなくて失敗してしまった時
係長というポストに対しての役割が果たせていないのではという思いがある。
係長という立場で事務的業務が増えたり、色々な調整会議への参加も求められ、上下から求められることへの調整能力に不安があり同僚からの理解が得られる体制でないように感じることがある
係長のポストになり、自分をおさえて、上司と部下の間で調整をし課内での業務がスムーズにすすむように努力しても、部下が自分のことだけを考え行動する時。今、2人神経内科受診中の人があり、いろいろ気づかううちに自分自身がつかれてきてしまう状況にあること。仕事が忙しすぎる。
係内での調整が上手くいかず、1人の持つ責任が重いつき
係内で一番の若手なので、どうしてもコンピュータ関連や事務処理などをまかされることが多く、本来の相談業務に、あまり手が回らない。
係内の意識の統一は、とれているので特にストレスは感じない。困難でも、係内で話し合いがもて、解決にむけ協力できる。しかし、時々他の係への業務の協力をする場合、人によりかたよりのあるを感じる。自分の担当だけで進められているものについてはあまり内容もみえず、逆にこちらも手を引いているところもある。内容に疑問があるけれど、よくみえていない為意見もしづらく、同じ課なのによりその事業のように感じている。
係内の保健師の仕事に対する意欲・助言しても無視した態度・責任のある仕事をまかせられず、ここ1年彼女が異動できて、ずっとストレスである。残りの保健師の仕事の負担が大きいうえにストレスが多い一上司に相談済である
係内の話し合いが、特に事務職との関係がうまくできない時。町民に目を向けて仕事をしてほしいが、それが上からの自分の評価を気にしているような時はストレスがたまる。
係分担なので、他の係がよく分からない
契約不履行
形に残らない部分での仕事が多い時(予定外の仕事、担当が決まっていない仕事等)
従事業務量の交付等、福祉サービスの事務に従事する時間が多いこと(一係員としては、当然の業務ではあるのだが)
系統だてた仕事展開が行えていない
経営層(上司)と意見が食い違う時
経過がながかったり、評価するまでに時間がかかるのでやりがいや効果判定ができにくい時
経験が浅く、困難ケースや、保健業務以外の仕事を受け、良薬が浮かばない時や、先が見えない時
経験の少ないうちから、ひとりでもやりこなさなくてはならない仕事が多い。相談等する時間もあまりないとき。人が足りなくて、思うように個別の仕事(訪問等)ができないとき。
経験年数に比して仕事をうまくこなせない
経年的に実施している事業の一部(町民健診)を見直ししようとすると、上司に理解してもらえず見直しができない。
経理がむづかしい
継続性がない(担当者間での継続)
計画していた内容までできなかった時
計画していても、思うようにすすまない時
計画を策定している時策定=推進と考えていたが、策定のみでよいという意見が出た時。
計画性がないこと。上司の思いつきでいきなり"これをやるように"と言われることがある。その思いつきの仕事が必要なこと大切なことは十分分かるがそれをする前に解決していかなければならないことがあるにもかかわらず"やれ"と言われても困る。今まで事務職がしていた仕事をすることになったこと(出稼に関する業務等)。
計画性のないトップダウンの仕事が予算がついているからと無理やりさせられる時、仕事の配分が過重になる時
計画通りにすすまなかった時など
計画的な予定が立てず、その年々で実践してしまっている。長期的なビジョンを持ち、その理念のもと活動ができていない。また、評価もできない。(能力的に)
計画的に仕事が出来ない時、自分自身に不満をもつ
計画的に事業がすすめられず、いつもバタバタして、中途半端な形で終了してしまう。事前準備が充分にできず、自分自身の中で達成感が持てない
警察でも単独で訪問しないのに、保健師の訪問は1人で行くのが原則で安全の保証が危ういところ
軽い仕事と思われていることがあること
決められた業務をその日の流れの中でこなしたり、住民と個別に接する中で、自分自身を考慮することができるが、日々忙しい思いでいる自分に不満がある。人のために役立ちたいと思っているが、自分は本当に役立っているのか、自分の生き方に不満だらけの状況である。職場では、上司(事務職)のいじめにあった時は、本当に辛いものがある
決められた時間しかないのに、新規の業務が次々に計画されて実施されていく時
決められた時間内で、仕事をやりとげていかないといけない時。(仕事だけに全力投球できない!!こと)
決定権がない職位で、専門職の指導、助言に携わっていること 業務の企画、運営、評価に携わりながら事業の決定権が職位としてないこと
決裁業務が多く処理困難な時 人数が多いので業務の調整が困難な時(平等に配分するなど)
決定できる立場にないので、事務職の上司への説明や理解を求めるためのエネルギーが大変と思うことがある。しかし意見を言えば、それも仕事で、極端に不満という訳ではない。決定できる立場にあると少し楽かなと思う程度。
決定権がなくいつも上司にお伺いをたてなければならぬ
結果(成果)が得られない時
結果、効果がなかなか見えない点。
結果がかえってこない時など不快感を感じてしまう。
結果がみえにくい他職から理解されにくいと感じる。
結果が見えない部分で将来的にあるべき姿や方針が示めきれないまま仕事をしている時
結果が見えにくい。
結果が見えにくく達成感を感じられない時。
結果を出すまで困難で業務量の多い仕事の結果が、思わしくなかったとき
結核の事務中に精神の相談電話がかかってくる時、ほとんど予測できない相談(電話、来所)で、業務が後回しになること。
結核予防法に基づいた仕事をしているが、患者本人が治療や経過観察に前向きな姿勢がなかったり、接触者検診に対する理解がなく、何度受診勧奨をしても行動が見られない時
健康21、すこやか親子21、保健福祉計画、地域福祉計画、次世代育成計画等、似たりよったりの計画が次が次と優先順位関係なしに町におろされ、担当者の横の連携もほとんどなく、住民の為の保健師なのに、計画づくりばかりにふり回されており、仕事は増えているのに、人が増えず、財政破綻している町の保健師としては、非常につまらない状況である
健康づくりは、健診や何か問題や疾病があって訪問したり、指導したりするのと違い、そのニーズが公けにクローズアップされず軽んじて考えられることが多いということ。活動やその成果が他機関から見えにくく、評価されにくいように感じる。しかし、健康づくりはすべての基本であり根底となることで、とても大事な活動だと思っている
健康づくり関係の事業は数値で効果が現れにくいので予算化されない。逆に意味のない事業が単純な数値だけで残っていく。評価のスケールに事業の特徴をとらえたものをとり入れてほしい。
健康づくり事業、依頼、心障、福祉、精神福祉、障害福祉ケースの相談対応がスムーズにいかないこと。役所内の課構成が多すぎる。(いろんな人がかわかり、一貫性がないため同じことをくり返している)最終的にどうしようもなくなっている相談先になることなど。
健康に対する関心が高く、ニーズも多いために人員が増えないこと。保健師の専門性がうすれ、何でも保健師の役割になりつつあること
健康の仕事が、人的に不足になっていることは、人事課から、切り捨てられている分野なのかと思う。仕事がありすぎているが、不満を感じてもやるしかないの、年齢相応に、おだやかに仕事をしている
健康管理センターという別建物に在るだけで、仕事内容が、上司にわかってもらえない点。忙しさも全く伝わらない。
健康教育の依頼を受ける時、その目的・理由が本来のものとはかけはなれている時。
健康教育を実施するために、内容の企画にかなり悩む。どのような方法が参加者の満足につながるのか、そしてどう評価したらよいか悩む。また、たくさんの健康教育の種類があるが、参加者は、固定した人や年配者がどうしても多くなる。生活習慣を見直してほしい人は、もっと気付きのない人にとりかかってもいいと思うが、企画を悩む割に、必要な人にできていない気がする。また、指示された回数、内容を、こなすことに一杯の日々である。これで良いと思わないが、訪問にもつながらず、悩む日々である。健康教育が保健事業に有効か疑問を持っている。また、健康センターがなく全ての会場を借りている。毎回いろいろな物品を持って、まわるが視点があればもう少し業務の負担が少なくなると思う。また、事務職がいなく、保健師としての業務以前の業務の調整等に追われる。

健康教育等企画する時間がない
健康相談担当ということで、多岐にわたる相談に応じなければならず、困難を感じる。相談担当として、特別な研修を受けたわけでもなく、中には医療相談(治療内容に関する事)なども持ち込まれるが、保健師として、そういう相談にも応じなければならないのか…と疑問に思いつつも、対応せざるを得ない状況である。その一方で、事務職でもできるような書類の整理や電算入力などの作業に時間をとられることも多く、不満に感じている。
健康増進に関する事業に対して、十分予算をとることができず、新規事業ができないこと
健康日本21の推進にあっても、1. 保健師の機能は勿論、行政が公的責任として果たすべき健康課題の取り組みに対する市行政首脳部の無理解。(対策、取り組み方法についてわからない以前に浮きぼりにされた健康課題への関心の低さ) 2. 国・県も、問題としては認識しても、この問題解決として健康課題をどうするかという局面になると、構造的にとらえることも、取り組みの対象を明確にすることも、保健のみではなく、医療、介護とどう相互に連携するか等についても具体的に示さず、指導的役割を果たしてくれません。3. これらは、労働環境にも影響し、財政難に職員減の中で、保健師は機能を果たす時間もエネルギーも奪われるばかり。又、ハードな時間外での努力に対して、改善すべく努力するどころか知ろうともしない上司の関心の低さ。
健康福祉事務所へ県下の状況等 又他に質問をしても答えがかえって来ない事が多々ある
健康面全体に関する相談をうけるが、それに対応できるだけの知識を身につける機会が少ないこと。疾病の部分では、本による知識のみなので。
健診(事業)が多くてケースと向き合うことがなかなかできない
健診(乳幼児)の担当をしているが、事務におかれ、健診事後の訪問や電話でのフォローに加え、未受診者への対応等が、十分にできている状態とは言えない。また、自分に対しても、子供が小さいため、他の職員に協力してもらいつつの、仕事なので、申し訳ない気持ちである
健診、訪問、地域健康相談など住民と関わる機会がある分、例えば、児童福祉課の職員の場合など、問題ケースとの接触の機会を持ってほしい等の依頼をされる事があるが、保健師の関知しない部分で動きがあったり解決した場合は等あったとしても、きちんと連絡をくれない事も多く、都合のいいように、使われているのではと思うことが度々ある。
健診の通知や事後処理など、もっと事務職の方にやってほしい。事務職の方に任せてもいい仕事はやってもらって、訪問や相談など専門職としての仕事をより深く行いたいと思う。
健診や健康相談など、様々な保健事業で住民さんからいろんな健康に関する質問を受けて、もっといろんな知識をもっていればもっとたくさん伝えることができるのに…というほうがゆさを感じる時。
健診や訪問などはよいが、地区組織活動をみたり、PHNの専門性に悩む時がある
健診会場で来所者とゆっくり面接できず、あせってしまう時。(もっとしっかりお話をききたい！と思うのですが…)
健診業務が多く健康教育等健康づくりにあまり力を入れられない 人手不足
健診業務と経理事務(予算補助金関係等)に追われ保健師らしい業務に専念できないこと
健診業務等の事業が多くデスクにいる時間がない 自分のかかわっているケースや事業の整理ができない 人(PHN)が不足している!
健診等で苦情をよせられる時 仕事の分担が平等でないこと。
兼務が多すぎて、仕事がおちついてできない
兼務で業務をしている点
兼務の仕事が多く、最低限の仕事しかできていないのではないかとと思う時。ケアマネでもあるが、いわゆる1人ケアマネで、担当ケースも多く、多様な相談が量なるときつい
兼務の中で順調に仕事が進まないこと 苦情、トラブル等が多く処理できない時
健診等の事業実施に与えられる時間が多く、地区活動があまりできない。また、介護保険導入後、訪問ケースも減り地域の状況がよくわからない。教室等で接するごく一部の人以上、一般住民の声をきくことができない。今の仕事の方法、内容で地域の健康度を上げることができるのか不安。
検討したり話し合ったりする時間が十分とれないまま、業務をこなしていることがある、こんなことでいいのか!と感じるが現状を打破できない
権利が主張できないとき
権力に負けるとき。「上から」と納得できない仕事をするとき
研修が業務(保健事業)の都合上、参加できない。
研修に行くのに制限がある。保健師の活動に対する評価が低く感じる(一活動のアピール不足もあるのかもかもしれません)
研修のための旅費がほとんどないこと。全体的に予算が縮小され、新規及び従来の事業を組めない、大きくできないこと。費用がかからずしかも効率的、有効な仕事が保健師に求められていること。
研修の機会を与えられずに、新しい事業へ取り込まれる時。
研修や学習を受けたくても、家庭の都合や、予算の都合、交通の便、会場等により受けられない事がある。常に新しい情報や技術を入手したいが、できず、仕事上に不安となったり自信がなくなったりすることになる
研修等を受けてもそれを実行できない時。
県から委譲されてきた仕事がふえていて、業務量がふえていること、統一した評価等のマニュアルはなくまた仕事の整理も自分自身あまりできていないこと
県の事業で、保健事業や介護予防事業の中で企画の仕方や評価の仕方などの研修会が開催されている。高齢化がすすみ、医療費や介護保険給付費が増加している中、こうした有意義な研修に参加しても、業務の中で生かせないこと。町として、課としての話し合いや企画ではなく、一担当と上司との話し合いで事業の内容が決まられていること。もっと、広く考えた方がよいのでは…と思っています。
県の事業などで、納得がいかなかったとき。
見通しが立たない、ゴールはないはずだが、将来像とか最終的にこうなってほしいというものが見えない、子どもから、高齢者まで、いろいろな健康etc問題はあがれども対応したほうがいいとなるとやりきれない、優先順位を決定する上での、決め手にかける
厳しい財政の中で仕事内容全てについて上司から予算の切り詰めを強いられる。事業の見直しも考えてはいるが、新規事業等については殆ど受け入れられる状況にはない。
現在 育児休業中 自分の無力さ、人間的な小ささの中で、住民との関わりで困難を感じることが度々ある。住民との関わりに対し、経験の少なさを理由に不明確な返答をすることは出来ない。そのプレッシャーはいつも感じている。しかし、各保健師が多忙の中仲々相談することもできず、自分の中だけでは処理できないことなどが少な不満に感じている
現在、メンバー(事務職も専門職も含んでいる)に恵まれているので特に不満はないが、同僚との人間関係が重要である。一連携をとる機関の方もいるが、仕事上でわかりれるが、同僚はいつも一緒にいるので人間関係は大切。人間関係がうまくいかないと仕事にも影響する。
現在、介護認定調査が主な仕事であり、はたして保健師のやるべき業務が悩んでいます
現在、介護保険(認定審査)の仕事をしているため、保健師活動ができない。(予防活動の大切さを常々、感じています)同職種、同業務の者が、現在の職場には、いないため「これでいいのか?」と自信なく、事を進めている。
現在、介護保険に関する業務を行っている。保健師として、もっと、介護予防に力を入れたいが、できない事への不満と、介護保険分野での保健師の位置づけについて
現在、介護保険業務に携わっているため、事務的な部分が多い。保健業務にくらべると地域活動はどうしても少なくなる。ただ、介護保険業務では医学的知識を求められる際、事務職だけでは対応できないため、保健師等の専門職が必要と思う。住民を対象としているのは同じなので、今の業務の中で専門性が発揮できるような関係機関と連携し、住民がよりよいサービスが受けられ、介護保険業務の質が向上するように努力するしかないと思われる。
現在、差給型在宅介護支援センターで仕事をしております。市の機構上、介護保険担当部署にケアマネジャーの配置がない為、日々の業務のうち70~80%が、介護保険業務にとられてしまい、支援センター本来の業務が勤務時間内に充分できないことが私にとって、ストレスとなっております。これまで、保健センター保健師と、3年間程度で、配置がえをする様、人事担当者や、上司に申しましたが、聞き入れられず10年間そのままです。そのことにより、ケアマネ資格を持つ、私に仕事が集中して来ます。この10年間、休日出勤、毎日、夜遅くまで残業し、両方の事業を実施するべく努力して来ましたが、もう限界となりました。保健センターには多くのスタッフがありますが、福祉課には、私と看護師の2名で、仕事の性格上、「明日にして下さい」と云えない相談等が多く、管理職としての業務は、できないのが実情です。でも予防事業は、しなくてはならないし、胸のいたい日々です…。
現在、経理事務を行っていますので、専門職として、保健師の仕事ができないことに大変不満を感じています。
現在、合併に向けての話し合いが進んでいる中で、それぞれの意見が、食い違ったり、自分たちの地域の特性が生かされないまま、上部の段階で話が決定されている時。
現在、産業保健分野で業務を行っているが、単数配置であり業務量が多い。他事務職と業務配分の均衡が図れると良い。
現在、支援を必要としている方への活動や健診業務等で余裕がなく、担当地区全体のニーズの把握や活動を見直すことなどができていない
現在、事務職員として職務に就いているが、時と場合によっては「保健師だから…」ということで、多くの業務を課せられること。担当業務が多すぎて、煩雑になっているのではないかと思うことがある。
現在、当市では、本庁機能、保健所企画調整、二次事業実施機能、保健センターでの一次の対人保健機能と、役割分担しているが、施策の方向性や情報等の共有化ができないままでの事業実施をせざるを得ない時は不満が強くなる
現在、保健師業務を離れ、行政事務職4人をかかえる中間管理職として業務を担っている(一部、保健活動を含む課内決裁もやっている)仕事に対する不満はないが、行政事務システムが理解できない議会運営財政管理等わからないことだらけに悩まされる、つらい」と考えながら、大変さは理解できても、なす手立てがわからず、判断を求められることです。現在、いく分、できないものではなく受け入れ、共に協力してわらうと努力しているところですが、でも、ずっと無理解のまま終わらそう気がします
現在、保健師長と介護保険課長を業務しています。どちらの業務も中途半端な仕事になっており、納得のいく業務ができません。辞令により職務を遂行しなければなりません専門職以外の仕事は初めてで、自分の経験と能力のなさに自信を失っています。
現在、保健所からおりてくる事業+福祉と一緒に事業による業務を実施していますが、業務量が多すぎてこなしている、という感覚に陥ってしまう時。時代が変わっているため、比較するの、不適切かも知れないが、以前は、もっと自分で考えて、仕事ができ、評価も今よりきちんとしてきており、やりがいを感ぜられた。
現在、保健所と市センターの機能を持っているため、担当により仕事内容が異なる。人数も多いため、他の担当の保健師が何の仕事で大変か、わからないことも多い。他の担当の人から仕事内容を理解されないことがつらい。また、担当により、業務の量の多さが違う。

現在、保健予防分野の業務(本来の業務)の他に、介護保険の調査員の業務もを行っています(介護保険制度開始当初より) 本来の業務については不満などなく、むしろ今後手がなければならぬ課題がたくさんあり、意欲も持っています。逆に介護保険の業務は、「なぜ私達が？」と不満を感じ、上司にも伝えています(なかなか体制の整備(財政面の点から)ができない状況です。本来の業務にじっくりと組み、介護予防につなげたいです)
現在、母子保健を4名(産休・育休1名を含むので実質3名)の保健師で担当し、予防接種担当のNと事務職2名の班で母子保健事業を運営しています。保健師5年目の経験ですが、臨床10年の経験と年齢からなんとなく保健師の調整役となっています。首長が変わり、急に保健師がふえたことにより、保健師に対する期待は大きいもののチームとしてまとまれないために増員しただけの効果を出せることができていません。こなす仕事をしながら考える仕事に取り組むのは大変です。(検診業務におわらなから地域行動計画を全庁的に策定していく等)いっしょけんめい仕事をすると、どんどん仕事かふえます。「できるやつに仕事があつまる」と言う人がいますが、おかしと思います
現在、本市の行政機構により、保健師が保健部門以外に福祉、学校教育関係に配属されているが、部署によっては配属が必ずしも必要でないと思われる部署がある。障害者の施設においては必ずしも市の職員の配属ではなく他(社会福祉協議会)に一部職員の委託でも充分に可能と思われる
現在ある業務に流されている自分自身に気づく時
現在すすめている町の合併に関する準備作業で、他町と事業のすりあわせをしているが、考え方の相違で、折り合いがなかなかつけられないことが多い。そのような時に大きな不満をもってしまう。
現在のところ とうくにありません
現在のところ特になし。
現在の機構・体制に仕事のやりにくさを感じることもある。各係間の調整など、お互いに話し合う機会がもっとあればよい。不満ということではありません。自分自身の努力不足を感じている所です。
現在の業務が介護保険に関することで介護給付費の支払いや不正請求のチェックが主な業務であり必ずしも専門職として活かされている業務でない(専門職でなくても一般事務職が行える業務を行っている)
現在の業務では、4月から調査項目が変更になり状態は変わらないが、昨年と介護度が変わり下がったと本人や家族ケアマネジャーから苦情がある時。保健事業を行っていた頃は、業務量が多く他のスタッフの協力が得られない時等。
現在の業務では担当していることが整理されていない(兼務が多い)ので納得いくような仕事をしておらず、評価して欲しいとまで至っていない。
現在の業務の中で、専門職としての役割が見出せないこともあり、これではよいのかと考えることも多い
現在の業務は、事務作業であり、地域住民に直接関わり、行動変容を促す、支援する様な業務ではないこと自体に少し疑問を感じる。制度の中に存在していても、出来る事は、水際で不必要な申請を阻止する単位である。当課に存在する貴重なデータをいかに介護予防につなげていくかを関係者と共有し、事業化していく事が重要であると思うが、既に作りあげられた体制を打破し、新しい体制を作り上げるという奮闘が課内にあまり感じられない事、それを行うエネルギーも自分にはない事に対して、イラ立ちを感じる事があります。
現在の業務は事務的業務が多く、職員配置及び事務分掌に不満が有る
現在の業務を行っているのが保健所に1人しかいないので、その点で負担増となることもある。
現在の係では保健師1人配置、他は全て事務職員です。介護認定調査員や介護支援専門員への研修、指導等が仕事となっていますが、同じ立場での相談相手がない事、又現在実施している事が正しいのかの評価をしてくれる人がいない事、個別相談等で理解して相談できる関係、上司がいない事、全てが一人にかかり悩む事が多い
現在の係の保健師の配置が2名のところが1名育休中、嘱託で対応しているが勤務時間も短いためどうしても自分に負担がかかる、又、介護支援専門員の嘱託も長く勤務してくれる方がみつからず人が交代するたびに仕事を1から教えずにこなすのが自分の仕事ができない、保健師としてもう少し幅のある仕事をしなければならぬと思う反面業務に追われ毎日をごこなしている、残業もしなければ追いつかない、他の事務職員は帰っていると思うと悲しくなる
現在の係は事務処理的なことが大部分であり、円滑に仕事をこなせていると自負しています。ただ、業務をこなしていくだけで本當にいいのかと「不安」を感じることはあります。
現在の仕事、保健師の活動がみえないと言われる 他の職種の人に理解してもらえない時
現在の仕事が、保健師以外でも十分できる内容であり、もっとやらなければならない仕事が多分になっていること。(専門性に欠ける)
現在の仕事が保健師の業務でないために、アンケートの回答ができていない。
現在の仕事を能力的にも時間的にもやるとなるとかかっているときに、更に業務をふやさされたとき「あまり仕事してないようにみられるのか 案外にみられるのか…」とガックリしてしまう、ゴール1歩手前であと半分残っているとわかれるカンジ。
現在の事業内容からしても新規事業はめめず、また必要性を感じない事業をするよう勧められる時
現在の自分の仕事全部。
現在の所属部門に保健師の必要性を見出せなくなったとき。教育委員会に保健師が居る事で学校と保健部門の連携した業務が計画が立てられるが、居る必要性には疑問を感じる
現在の職が保健師としてではなく、看護士としての業務が主であるが、看護士としての臨床経験はないため、ジレンマを感じている。教育の中では、在宅、地域の視点、関係機関との連携の経験を生かすことができるが、看護教育の中でこの位置から考えると、看護教育において、自分がどこまで、役に立つのか、不安な点がある
現在の職場でのポジション。名前だけは保健師だが、結果としては、ケースのマネジメントをすることもなく、在宅支援センターの職員の介護に対する考え方に疑問を持って、何か指導するポジションでもなくて、指導しても、関係ないと言われること。又、庁内でも、保育園で保育していた者が、福祉の相談員として仕事している。同じ業種にいて、その人のしている事を見たり聞いたりして、とても不安に思ったりするが、係がらがうと、意見を言う事は許されない。時々、信じられないという指導をしているのを見かけると「イライラする。そこで今は、自分は保健師でないと思おうとしています。
現在の職場では、何の為に専門職が必要なのかと惑ふることがよくある。しかし、業務分担任他課との兼ね合いもあり、自身の考える専門職としてできると思う事が進められない。(その年の管理職によってその差が大きい。)
現在の職場では介護保険制度の一事業者としての事業展開を行っているが、収支が悪化(赤字化)すると事業継続が困難であること。行政責任を外郭団体に求めるのであれば何らかの措置が必要ではないかと考えるが、理解を得るのが難しい時
現在の職場では特になし。自分のペースで展開できている
現在の職場は、仕事のほとんどが保育士の保育補助に時間が費やされている。
現在の職場が中途半端なので(専門職と行政職のかけもち)もう少し立場が明確になり、組織としての判断をしっかりと出来る仕事したい。
現在の部署が、町営の在宅介護支援センターであるが、居宅介護支援事業所を併設していない(ほとんどは、社協や特養等の施設委託で居宅併設)ため、相談事業、介護予防事業が主たる業務です。介護認定された人についてはケアマネジャーに委ね、ケアマネの相談に乗ったり、指導している事はあっても、事例に責任をもって最後まで関わる事はありません。又、介護認定されない人については、地区担当の保健師が関わるという事になり、支援センターの保健師の業務に、いつも達成感がありません。(事例についてトラブルがあった時のコーディネーターの役割は、保健師として行う必要があると思、実践できていると思っていますが…)。中途半端な立場だなと思っています
現在の部署では介護保険の認定調査のみが職務でそれ以外は余分なこととされています。保健師本来の仕事ができないことが非常に悲しいです。組織の問題なのか能力の問題なのか悩みます。
現在の保健福祉係で、保健師として、障害分野で何が出来るか探している最中だが、実際には事務処理におわれ、保健師でなくともできると思うことが多々ある。
現在は、事務の肌上での仕事が多いため、どのような現場で専門職という業務を生かしていけばよいのか。
現在は、保育所での勤務のため、保健師は1人であるが、保健の分野は？ということがあり、自分の仕事について悩むことがあるが、他の職員との関係もあり解消されない時。
現在は違いますが、地域(校区)を担当する場合、1校区1人で担当するため、1人で考えて、1人で活動しているという体制を不満に思う。(その人の能力によって地区へのサービスが変わってくるため、これでいいのかという悩みが付きにくい。相談はしても皆考えがちがうので、担当者の考えで決定して、進めなければならないことがある。)
現在は建物の管理業務も行っているため、事務的な作業がとても多く、保健事業も含めて量的に多くマンパワーの不足を強く感じている。
現在は地区を持たない為、ケースと対応することがなくなったこと、母子担当グループの潤滑油の役割を果たさなくてはならないが、なかなかできていないジレンマに落ち入っています
現在介護保険の認定事務を担当しているが不満というよりこんな仕事のやり方でもいいのかという不安感が常に(認定事務におわれ、デスクワークがほとんどで保健事業にたずさわる機会もほとんどない)
現在介護保険業務との業務があり、保健事業との頭の中でのきりかえが難しい。自分がどちらに向かって考えなければならないのか見失うことがある。
現在行っている業務が、手いっぱい、日々、時間に追われるような感じですが、1つ1つの業務の振り返りができないこと。
現在行っている事業、今後予定されている事業の企画経過など情報が入りすぎずらい(充分な準備期間なく、いきなり事業を企画せざるを得ないことが多い)
現在自分が企画し事業展開しているわけではないので、満足感が、あまり得られないところがある
現在社会において、人間関係がすぐくずること、権利は主張していても義務をはたさない人の増加。保健師が自分のわがままで生活ができなくなった人に対し、対応がむづかしい。年金を担保にお金を借りることができないようにしてほしい。年金をとられるとその人が生活できなくなる
現在主にやっている仕事が介護認定調査(新規対象)だが、調査後はケアマネジャーにまかせることが多いので初回の関わりはできるが、それ以降は書面上でその人の変化を追っていくことはするが、実際接する機会がほとんどないこと。とても中途半端な気がするが、現在調査だけでも手いっぱいであり少しづつ非該当(自立)の人へのフォローや要支援、要介護者への訪問等広げていきたいと思っている。
現在受け持った仕事で、病診や医師会の診療等に関するモデル事業の一部を担う中で、全く、どこにも先進事例もなく、他部署の動きがわからない上に自分ではどうすることもできない仕事を方針、方策を具体的に示すこと。特に医師等の調整は、負担を感じることも多々ある。何度も同じ資料を求められる時
現在所属の課は事務的な業務も多く含まれているため、専門職として住民との関わりには限りがあること。

現在精神保健福祉業務を主に担当している 当市の場合今まで、精神は県(保健所)という整理をしてきた為ノウハウ力量がなく毎日勉強しながら業務をこなしている 現在PSWと2人で担当しているが保健師の役割機能PSWとの違いをどのように整理し示していくか1年目を終わろうとしている今悩んでいる
現在担当している業務は、事務量が長時間に足りない状態です。
現場(事業や訪問)より事務的の仕事が多いこと
現場からの意見と今の立場でなくてはならない業務の整合性がないことがある時
現場が無理なのに、上司から業務命令が下される時
現場で必要な
現場の意見が反映されずにおこなわれる仕事をする時
現場の意見が反映されないこと
現場の意見を全く聞かなく、勝手に組織改正をされた。専門職に対する尊重もない、又、センター所長は医師であるにもかかわらず公衆衛生のすすめ方、意味を理解していないため、合理化のみしか考えていない安易な組織改正を受け入れてしまう。
現場の業務状況と、社会状況の変化により仕事の評価法が変遷している。それらの変化は、毎日の仕事だけに追われていると、なかなか気づけない。近年は、政策評価が求められているが、それらを、みんなにうまく伝えられず、それらに取り組めない、いらだちを、自分自身に感じている。
現場の状況がわからず出した結果数値で判断される
現場の声が反映されて、事業実施につながるパターンよりも本庁からの一方的な企画が現場に次々に下されてきて納得いかない状態のままスタートせざるを得ないことが、度々あること。一方的な企画であっても現場で十分に検討して形をととのえてすすめていければいいのだが…。
現場の声をきかれることもなく、声をだしても、きく耳なしの態度を崩さず、表面的な判断で、大きなことが決まってしまうこと。検討会などが、いつも形骸化していて、判断、決断をくだす立場にある者が、何も知らずに強硬な態度で、おし通す体制に不満です
現場の声を十分に代弁できない時、理解を得られない時
現場の声を上司が上につなげてくれない。やりたい業務を直属の上司が理解してくれない
現場の声を上司が上につなげてくれない。やりたい業務を直属の上司が理解してくれない
現場の声を聞かず組織のしくみが変わり、事務的な仕事(特に福祉サービスに関する)が押しつけ合いになり、結局やらざるを得ない状況になる時。専門職としての仕事内容よりも事務的な内容が多い時。
現場を見ないで、予算の削減ばかりばかり主張する、外部からの管理職
現場を知らず住民の声もきかず何のために公務員として働いているかわからないような上司に、仕事の予算をやみくもに切りつら認めてもらえないと感じた時
現場を知らない管理職の方達が、制度を度々変更してしまうことで、しわ寄せがくる時。
現場を無視した上司からの一方的な仕事の指示
現場業務が中心であるが、それをスムーズに行なうための事務業務の時間がとれないこと どれくらい現場が続くことが多々あること
現場重視の時代が長く事務的な流れや文書の会議等があまりなかったため、PHNが多くなってから事務量も多くなった時に大変であった。
現場保健師との認識の不一致
現状では、仕事に対する不満はありません
現状で保健師としての役割は(保健師でないといけない仕事の仕方)何かを考え続けています(介護保健)
現状は特に不満なし
現場での役割は、医療職としての役割の他に保育業務も兼任している。現場では、3年目ということもあり保育業務で任せられる仕事が増えてきており、この業務のウェイトが半数以上を占めるようになり、医療職としてもっと取り組みたい問題に専念できる時間が充分にとれない。そのことを上司や同僚に訴えるが、保育士が9割以上を占める職場のため、なかなか聞き入れてくれない。園長や係長は、私の考えを理解してくれているが、その他の職員が医療職としての役割は医療行為や管理の看護業務のみを行ってほしいという考えが強くあり、健康教育や予防活動、相談業務を行なう時にストレスを感じるが多い。しかし、行う必要性が高いと判断し前向きに取り組んでいる。
現場では、一人職種で、他の職種は多数居るにもかかわらず、事務的作業や他職種がするべき仕事を、あたり前の様にしなければならぬ事。(その為、自分の仕事が思うように運ばない、進まない、時間(勤務)内に終わらないなどがある)
現場では事業を組み立てるのも話し合いでうまくできているのであまり不満はありません。強いていえば果からこの事業を取り組んでくれというように上からおしつけられるような事業に取り組まなければいけない時
現場では直接的な保健師活動ではないため早く現場にもどりたいと考えている
現部署は、市立病院の一部門です。保健師職は看護職であり行政職でもあり、しかも福祉・医療・介護保険とすべてが範疇であるという、まさにそのオールマイティさがただの「便利屋」として存在しているのが私の現状です。(また病院という機関は医療職が権限を持ち、決定権を現実には持っています。これは余談です) 保健師がさまざまな部署から役割を求められているという事は、反面、このようになっていないのでしょうか。過渡期としてとらえ、種々の専門職と役割を明確にしていなければならないと考えます。今、私は、(いいように使われている)感がぬくえません
言われた通りに仕事をしたのに違うと言われた時 一般常識的な事だと思って行ったことをどうして！？と言われた時など、知っていたの！？
言葉にできない 小さなことが、いろいろ…たくさん気にすればある一結果「まあ、いいか」と適当にこなす流すようにしている
限られた援助(人的、社会的資源)しかできない
限られた勤務時間のなかで、業務量が多すぎて十分な対応ができないとき
限られた時間の中で、その日のうちに終わらせなければいけない業務が重複し、さらに新たな問題が生じた時
限られた時間の中で、仕事が思うように進まないことがあり、積み重ねて後回しになったり、残業になったり、未消化になったりする
限られた人員で仕事をこなすことになりかなりの難しさを感ずる。人員の不足・業務の複雑さを時間をかかると(=残業)で補っている気がする。
限られた予算の中で事業を行うこと。(講師の充実、よい講師がいても予算がとれず、呼べないなど。)限界を感じる。これからはボランティア活用時代か？
限りあるスタッフの中で、精一杯事業展開を実施しているが、いろんな面であれも、これもと求められることが多く、いつもコップから水があふれているような状態である。余裕を持ちながら働きたいと思っているが…。
個々のケースに対する問題解決が十分に行えない時に自分の力量について不満に思う。しかし、力量を上げるための方法がよくわからない。
個々のケースの問題解決のための対応策が提示できない時の制度の内容等
個人の責任が大きい 課としての一本筋の通った柱がない
個人レベルで見ると業務負担(業務の多さ)に差があまりないこと、又、それが認められているところ
個人的に感じていることですが、職場の雰囲気あまり好ましくないと感じています。
個別ケースが受け持った者の責任でかわるようなところがあリスタッフ間でケースの共有が回らざらぬこと。空き時間にケースについてなげかけるが、上司が席をはなれ雑用をしばし始めること。上司以外のスタッフとはある程度ケースの情報交換やりとりができるのに、という時
個別ケースと関わる時間が少ない
個別ケース対応(困難ケース)から、事業の運営、電話相談、補助金などの事務処理等の業務に日々追われ、1つ1つの業務の積み上げ研究などが十分にできず、いつも各業務を深めれない、また、精神保健福祉分野に所属しているが、対応すべき課題が山積みで、人口対職員の数では十分な職員数が確保されていない
個別ケース等、かなり重点的に関わらなければならないものがあるにもかかわらず、他の事業にいわゆる“助っ人”として借り出される時。
個別ケース等、かなり重点的に関わらなければならないものがあるにもかかわらず、他の事業にいわゆる“助っ人”として借り出される時。
個別のケースワーク、事務処理、事業所への研修の企画運営等やらなければいけない業務の幅が広く、どれも中途半端にしかできていないような感じで充実感、達成感を得られない
個別の対応だけをしていて、そこからかんだ課題などをまとめきれない時。
個別援助活動や、事業別担当など仕事の内容は多岐に渡るものの、一つ一つのことが知識、技術ともに不十分のまま行なわざるを得ないこと。後任への事業の引き継ぎが系統化されていないため、継続性に欠けることが多い。
個別指導に複数の事業を受け持っており“広く浅く”しかどれも対応がとれず満足に実施できないこと
個別対応の事例や、保健事業の立案、実施、評価などの活動全般についてスーパーバイザー的な助言が求められないこと。関係部署との連携や、さらに同じ担当部署内の連携でさえも時々難しいと感じる。職員各々の考え方の違いもあるのかもしれないが。
個別対策で、面的な広がりがない。(行政的視点に立った仕事(実務)ではないこと)
雇用形態が(自分の都合で)非常勤としてもらっているため、業務が充分こなせないとき(時間が足りない) また、他職種(Ns etc)の非常勤職員になかなか意見を言えない
互いが、仕事の押しつけあいをしてしている場面、仕事内容があまりに雑多で、1つ1つの事業やケースについてじっくり考え、ふり返る間がない。(やりっぱなし、やつつけ仕事が多い)
先輩が育っていないと感じる時一教育が変わったためか、あまりにも手がかかると感じる 現場で育てる、という方針では現場が困る。保健所のように数名しかいない中、保健師1人の仕事の占める割合が大きいため、結局時間外に自分で対応していくしかない現場である。
先輩の育成でうまくコミュニケーションがとれず意見交換がしっくりできない時
誤解でトラブルをおこしたとき。意図がうまく伝わっていないとき。
公費で研修が予算の関係上、難しいこと。

公平性 できない業務をはずしていくばかりではその分他のスタッフに負担が大きくなっていることを上司はどう認識しているのかわからない 業務をはずすだけでなく本人に自覚させるような指導がされているのか
公務員、役所だから何でもできると思われる時
公務員であるがゆえの矛盾にストレスを感じる 仕事に対する姿勢や能率、努力に関して評価されることがない。
公務員という仕事は、なかなかから評価される仕事ではなく、何か失敗した時にたたかれることが多いこと。(何か上手くいっても、目に見える評価はあまりなく、自己評価と、周りの人の評価で終わりがやすいが、失敗した時には、個人が責められやすい)
公務員としての限界
公務員として上司の指示に従うのは当然ですが、上司に自分の意見を伝えようとしても、伝わらず、また、仕事の目的について納得できずに仕事をすることがあり、(自分の力不足でもありますが)仕事に対するやりがいがないことがあります。
公務員におけるリストラ(効率化)をいかにして住民にしろせていくか、組織的に明確でない点仕事に非常に不透明でチームとして動きにくい点
公務員は“ラク(楽)”だという視点で仕事を見られるとき
公用車の数が少なく、訪問に出かけたくても行けないことがある。
効果や意義が見出せない時、業務分担の負担が多いと感じる時
効率の良さを優先できず、一定の段階を踏まないと、仕事がすすめられない時、もどかしさを感じる。相模の中で働く上では、仕方がないとは思っている。
効率よく仕事がこなせず、専門職として就職しているが、あまり専門性をいかした仕事ができていると思えないこと。
口ばかりで仕事をしっかりしない人がいること一このことによって仕事量がふえること
広い範囲の仕事で負いきれない
広く浅い仕事しか出来ない(施策的に)
広く深く対応することが求められること。
恒常的に忙しく残業が続いている 4月以降居宅介護支援業務内容が増え、ホッとできる時がない。(今の部署にきてから)
拘束業務が多く本来の地域活動が全く行えないこと
拘束時間が長い、勤務時間が不規則、少人数での体制等の組織上の問題。保健師資格は要求されていない部門であり、自分の立場をわかまえての言動が必要のため、心を律していかななくてはならないこと。仲間がいないので、業務上の共有・共感できる心理的ないやしの場がなく、気持ちがさびつような不安があること。(対人保健サービス外に籍を置く者の自己管理の問題と思いますが…)
攻撃的な口調になる区民や、圧力をかける区議会議員から相談を受け、神経が疲労した時。
考えていることが、うまく表現できなかった時。伝えられなかった時。
考える間もなく追われる、やらされる業務がある時
考える時間がもてにくい
考え方の相違が生じたとき。
肯定的な思いをもてないとき
行きたい研修があっても現在の自分に直接関連のない場合は参加しにくい状況である
行った仕事について効果が実感しにくい
行った事業の評価をきちんと行なっていきたいが時間が足りない時。
行なっている仕事を一方向で、評価されるような時
行われている事業や業務について、上司が理解していないとき。
行革の中で保健師としての仕事の割合が少しずつ減っている。(行政職であることもわかっているが。)
行政センターにおいて保健師1人では、理想的な活動ができない。
行政でやるべきこと、できること以外の事柄に対して「役所がやるべきだ」といってできないような住民に対して対応しなければならない時がたつら
行政で行われる範囲がせまくて、活動に制限があるとき。
行政で働いている中で、都合のいいように資格を扱われること。何らかの事情で仕事が出来ない状態になった時に、代わりに仕事をしてくれる人員配置になっていないこと。
行政で働く立場と専門職の立場での目的が矛盾する場合
行政という立場であるがゆえに色々と言われたいわたり、困難なことを求められたりする時
行政という立場のために、やりたいことができない時
行政という枠組 予算がつかなければ動けないこと
行政と住民の板挟みになった時、両方の意見をわかつた上で、中立でいたい自分と保健師として、行政の立場から意見を説明しなければならない場合、非常にストレスを感じます
行政に在るといって、誰にでも平等に、まわりから不平不満をいわれないようにということが第一の目的になっていることは、ちがうと思います。今できることを今やることは、正しいこともあると思うのですが同じ目的にむかっていることができず(方向性のちがいが)気持ちの上でつらいと思います
行政に看護職を配置するために作られた職だと思いますが、矛盾や迷いが多いことも現実です。こういった調査が行われることが何よりも、それを物語っていると思います。本来の意味を大もできちんと考えて載いて、これからの教育に生かして欲しいと思います。質の高い保健師教育を望みますが、単に4大制にする、院制にする、ということだけでなく、人の気持ちの分かる人で、施策化の図れる人…等々本来の姿の見える人になってもらいたいです。仕事に対する不満というより、何をやるのかははっきりして欲しいです。
行政のしくみが、いまい分不清らない。
行政のなかで保健分野の優先度が低いこと
行政の一組織という活動限界があること
行政の古い慣習にとらわれて新しい物事に許可がなかなか出ない時
行政の仕事は、保健師の専門的仕事以外の仕事が多とところだと思ふ
行政の縦割りのシステムの中で、連携がとりにくい。自分がどこまで関わっているのか、迷うことが多い
行政の勝手な判断、ある課では、保健師の業務として明記されているのにさせようとしない、現在の介護保険課(在宅介護支援センター)では訪問指導、保健指導は当該の業務ではないとさせようとしない(健康課へ依頼して、断られたり)
行政の職員である部分でできることや求められることも多いが(転勤等でのマイナス面(継続されにくい面があること)
行政の中で、自分たちの仕事、活動が評価されておらず、この活動がとてまあいい立場にあること。
行政の中で、男性職員と変わりなく働いているつもりです。むしろ頑張っていることさえ思っています。ところが、保健師は何才になっても係長や課長補佐等の昇格が認められず、みじめな気持ちになることがあります。
行政の中で、保健師は保健 福祉 医療全般に渡って仕事ができる人という評価を受けている。処遇も(ポスト給料)それに比例していれば良いが都合の良いように使われた時、非常に腹立たしく思う。(当市の場合保健師の給料表は医療職3費であり、行政職に比べると生涯賃金が低い、しかし行政では今、人が増えないので保健師は事務もできると便利に使おうとする傾向がある。)
行政の中での専門職への評価が低い事。一般行政職あるいは一部の専門職との昇格および昇給に差がつく事。昇格の規程が明確でない為、不満が残る
行政の中での文書作成や予算編成、事業計画など(年間の流れや慣習なども)慣れないのでわからないことが多過ぎて、本来何をすべきなのかよくわからない。長く、臨床にいたので慣習の違いに驚いている
行政の中での保健師の専門性は何なのだろうと思う時
行政の中では、事務職が常にトップであり、専門職は事務職から見ると「扱いにくい、使いにくい、理屈が多い」と言われます。専門職を上手に使ってほしいと常々思っていますが、なかなかむずかしいようです。長く勤めているので「不満」は言っても何の役にも立たないと感じています。しいて言えば行政がヘルスプロモーションの視点で様々な計画に着手してほしいと思います。このような事を書くことで「だから保健師が管理職にならねば…」と言う方がいますが、まだまだ専門職の女性管理職を重要なポストにつける程、当役所は民主化(?)されていないと感じます。やはり、男性優位の組織です。
行政の中では専門職は少数派。予防に投資する考え方を理解してもらうのは大変。保健から福祉に異動した時、福祉に使う予算の多さ、確得の容易さに驚いた。
行政の中で政策として事業がトップダウンで行なわれマンパワーが十分に確保されない
行政の中で対人保健サービスをおこなう保健師のあり方を同僚と併に考えたいと思う時、話し合う仲間が少ない事
行政の中の業務量は増えており、保健師の専門性も期待されていると思われるが、保健師の数が不足しており、日々が多忙に過ぎている。
行政の中の業務量は増えており、保健師の専門性も期待されていると思われるが、保健師の数が不足しており、日々が多忙に過ぎている。
行政の中の保健師として、いろいろな事務、雑務が多くなりがちである。本来の住民サービスを十分にするためには、事務職の増員も必要だと思う
行政の分野で勤務する立場として民間委託で業務をまかなうことも一つの方法だが民間は、やりやすい所とお金になることを中心にしていくので、困難例などはやらない この部分は、どうしても行政がにならなければならないと思っている。委託する時の業務を見直しをもらいたい
行政の保健師として男尊女卑の世界を感じています。私共が企画することに参加すること「うるさい、女が口を出すな」という、ふん囲気を感じるのです。自分自身の反省すべきことは、多々あると思うのですが、おとなしくした方がよいのかし…と思ってしまうことがよくあります。市を健康よりよくしていきたいと思えばその発言なのですが…結構うるさいがられているように思います。健康増進で結果がすぐに見えないものです。それを全く仕事内容知らない人に説明し納得してもらうのは大変なことだと思います。

行政の方針「行革」の中で、理解が得られない、又、十分説明をしきれない自分に不満を持つ
行政の枠 行政のやることではないと言われ十分な情報提供、相談ができない時。十分なことができず達成感もない
行政の枠にしばられて、事業のやり方が制限されること
行政の枠にしばられていること
行政は全体的に悪まされすぎていると感じることが度々ある。(住民が望むような活動ができていないと感じることがある)
行政は組織で仕事をするので、連携がとりにくい。当市は1つの保健所しかなく、人口は60万以上、面積90km2と南北に広い、川崎や横浜のように区で決定権があるような体制が望しいと思うが、人口も面積も中途半端なかんじ。仕事に私事の雑談や、業務分担の不行平さも不満
行政機関の中で意見統一ができず活性化がない。
行政事務の仕事量が多くなり、保健師という力量をスキルアップする時間がとれないこと 介護保険導入により、老人とのつながりが少なくなり、老人の実態がみえにくいこと(介護保険関係には保健師の配属なく、情報がえられにくいこと)
行政自体が財政難にあえぎ、予算のカットのみならず サービスのカットをひきおこしている。特に、対人サービスという目に見えないものの重要性が見えにくくなっている。保健師1人1人の努力だけでは形にならず、住民の行政不信をまねいているように感じる。お金が全てではないとは十分にわかるが、貧乏は本当によくないものだと感じる。
行政職という枠の中で、思うように、地区の中で働けない時
行政職としての仕事求められるが、事務的内容を教えてくれる職員が少い。専門職は専門性だけでよいと思っている一般職員が多い。
行政職としての力量を一般事務職としてのみ評価されているような気がしている。免許は何なのか?
行政職の上司に仕事の内容が理解されない時
行政職の専門職についての理解が少ないため、業務を行いつづけることがある。
行政職の中で専門職としての位置づけがないこと、また専門職としての評価があまりないこと。全員女性の保健師であり自分を除いて出産、子育ての時期であり育児中であっても、完全な交替員の確保が図られておらず、事業の停滞があること
行政職の中で保健師というだけで地位が下にみられていると聞いたとき少しムツとした。周囲(職場)の保健師に対する評価に不満を感じる。
行政職の中に理解してもらえない人がいること 他の機関とのほうが連携がとれるような気がする時がある
行政職の中に理解してもらえない人がいること。他の機関とのほうが連携がとれるような気がする時がある
行政職の配属が保内にいないため、事務系の仕事が半分を占める現状にあり、専門職の力を充分に発揮できない現状にある。予防知識をもっと学習し、住民に伝え一緒に学習していくような活動を展開したい。
行政責任として対応せざるを得ないような困難事例に遭遇した場合、最終的な処遇決定は上司が下すことになるが、そこに至るまでの、係内でのバックアップ体制や的確な助言をしてくれるスーパーバイザーがいないこと(相談業務担当者には任されている現状)
行政組織の一員としての立場と保健師としての技術職としての立場が一致しない場面においてどのようなバランスで調整するかいなりで仕事をせしめようと内部的な苦痛は少なくなるが本来するべき仕事への影響が大きくなっていく。自分の判断が市民からみて、内部からみて、職業倫理からみてよかつたか迷うとき適切に相手に伝わらなかつたときに悔みます。
行政組織の中での専門職(保健師)の立場、事務職との違い、事務職との人間関係、保健師への理解不足(行政のトップが保健活動や現場を知らない)認識不足
行政組織の中での専門職の評価が低い。
行政的な事務能力が、事務職より劣っていて、全体的な能力がないように、保健師全体が思われた時。
行政内で評価されにくい
行政能力必要といわれるも、やれること、やれないことの判断がむずかしい。部下への意欲づけや統率力のない自分に対してのいらだち。IT化の中での業務の方向性への不安 地区活動(市民の顔がみえ声の聞けること)にできないこと。
行政保健師としてできる範囲に限られて、柔軟に対応できないところ。保健師同志では、意見交換ができるが、他の職員と事業について話がうまくできない(話がかみ合わない。)
行動することが遅く、時期をのがしてしまう時
高山市への吸収合併の検討が具体的な事業にまで及んできて、自分の力や考えや、過去の実績、住民の声にかかわらず高山市のやり方で調整されるので、非常に矛盾や無力感を感じた。合併がやむなし…とすれば、せめて、その後は財源移譲を進め、補助金にしばられず、真に住民の要求するサービスを実施していきたい。
高令者サービス、障害サービス、福祉サービス等が詳細になり、保健師の知らないことが増え、住民の相談にのりにくくなっている。保健師は、単に担当課へつなぐだけの存在?になりつつあり、(保健師でなくてもできそうである。)役所の出張サービスの仕事をするには、もう少し研修と教養(他課との連携)を増やし、住民の信頼できる相談者になりたいものである。
高齢者の虐待など困難事例について、どこ部署が担当するか明確化されていないこと、福祉事務所には高齢福祉CWが1-2名しかおらず、多忙なこと(それは、まだ命にかかわるほどではない…)と言われたりして、早急な対応が得られない場合など。業務が明確化されれば、連携もしやすいが、高齢者の情報(介保など)は福祉事務所であり、保健師はどうかかわるのか、はっきり示してほしい
高齢者福祉という、生活全般を支える分野で仕事をすると、保健分野の同業者と専門職として働いてないと言われる事。事務職の中で、専門的な視点での事業を立ちあげることの難しさ。
高齢者福祉のシステムは介保制度、相談は委託となっている中で、行政が対応すべきケースかどうかの判断について認識に他職員と相違を感じた時
高齢者福祉の施設勤務であるが、保健師の専門職としての業務が、介護保険が始まって以降、少なくなってきたこと
合併することによりきめ細かな事業が難しくなり地域型から広域型に変わることが考えられる。高令者事業においては足がないため不利となる。
合併という大きな出来事の中で、5年が経過しようとしていますが、保健部門と福祉部門との連携が、うまくとれないこと。どうしても、タテ割りで物事をとらえてしまっ、他人事のように考えている保健師が多いのではないかと
合併も話題になっている町の中心なので、他町と合わせて中心となり仕事量が多いところ
合併や社会情勢により保健師職種を専門職として重要視されていない、合理化の首切り対象と考えられるような人事課等の考え方
合併を目前に控え、忙しすぎて、業務打合せもろくになくなった?…できなくなってきた今の状況がしんどい。
合併前は町の体制が対連的であったため、不満があったが、現在(合併後)はなくなった。適正に業務に関する意見も反映される
合併後のすり合わせがなかなか進まない、社会全体の流れから逆行する方向に進むこと
合併作業を担当しているため、行政としての効率化と、保健分野の課題のすり合わせが、なかなかできない、非常にストレスの高い作業をしなければならない。
合併問題
合併問題・課題がサービスを抜きにしてすめられ、従来の活動基盤が不安定になる時
合併問題について、これまで実施してきた、きめ細やかな保健福祉活動が、市に移行する方向で、継続不可の内容が発生すると予測され、とてもつまらないと感じる事が多くある。
国(厚労省)の方針等行政の上層部の考えで、仕事の内容が変わって行く。特に最近では変化が激しくついて行けない(気持ち的に…)
国、県、市町村でひとつの事についての解釈が違う時
国、県からの通達が市町村においてくるのが、かなり遅いため通達と同時に実施という事業が多いように思われるが、実施する側になると準備も予算もなくすぐに実施することは非常に困難この上ない、もう少し、早め早めに通達手段を工夫し、知らせてほしいと思う今日この頃…
国の方針がいろいろ変わる中で自分達の活動が見えにくくなる、研修に行ったものも行っていない者の温度差ができ、やる気になっても反対にしんどくなる。内部の方向修正をするだけでエネルギーが必要な外部へのPRRをしきれない、そのために活動を理解してもらえない
国や県からの保健行務の変更意向についての伝達(連絡)が遅いこと。
国等で決定された事業を職場の実状に問わず実施しなければいけない場合、事業の必要性に疑問を感じながら行う場合
今、現在の保に、異動してくる保健師がいるか、心配になることがある。現在の仕事を伝達したい。
今、特に思いつかない
今していることの仕事すべてが専門職としての業務とは考えられない専門的な知識を生かす業務をもっとしたい、又知識も吸収できる場が少ない、新情報をたくさん吸収して活用、住民に伝えたい
今の「基幹在介」の職場は、市としてつづられて3年目、職員は3名保健師1名と社会福祉主事2名、活動の方向性が今一つ明確でない。どこまで担当するのかのように広げていくのか、3者の間でも合わない。
今のところ大きな不満はありません。ただ役所という大きな組織のかべで連携等うまくいかない時はもどかしさを感じます。
今のところ不満はなく、専門職としての技術がみがか、勉強していくこと、事例を多く体験する実践が、必要だと考えています。
今のところ不満をもつようなことはありません
今のポストは、事務担当ということで、電話の問い合わせから来所時の対応、それに伴う事務全般を1人で担当しており、席をはずすこともできないので息抜きができない。また、それ以外にも、保健師として業務を担当しており、全てが中途半端なので、自分自身が、常に、何をしているか、迷うことが多い
今のままの自分で出来ることをやろうと考えているので不満に思わない
今の業務に保健師という専門職が必要かどうかいつも疑問に思っている
今の行っている事業を行うことですぐに結論、結果が出ないことへのあせりを感じる
今の高齢福祉課に常勤保健師1名である 基幹型在宅介護支援センターを兼務しておりマンパワー不足である。
今の仕事に不満はないが、職員1名に非常勤5名という職員体制が厳しい。

今の仕事の半分は、事務職の方にやってもらいたい仕事だと考える人が削減され、そうでない。一方で、より専門的なことを求められるが、そのギャップに苦しむ。急がしい時期だと残業や休日にも仕事をしないと事務的なものがまわらないのに、保健師としての仕事を求められるとイライラする。
今の仕事をするにも余裕がないため、1つ1つの事業をもっと時間をかけて考え、検討、評価していきよと思う。
今の事業でも、いろんな視野をもって行きたいが、なかなかネットワークが組みづらい(とくに、庁内、関係機関等)
今の所あまりないです。
今の所は特に思いつきません。
今の職場で、専門職としてどう動けばいいのか、どこまでやればいいのか迷う事が多く、事務的な所で終わってしまう事も多い
今の職場でPHNが求められることが分からず、業務が多いため、施策化するものがたくさんあるのだからと、手がかからない。
今の職場では、1人職種のため、業務内容を理解されにくかったり、支援センター業務として、同職種の職員がいてくれたらと思っている
今の職場では特に仕事内容を荷重に思うことも少なくなり、特に不満はありません。
今の職場になってからは、特に不満はないが専門職として一人配置であるため、業務が重なることが多い。研修の参加が少ない。多忙なことは不満ではない。
今の職責は自分の能力以上のものを要求されているので、仕事の喜びは全んど感じられない。ただ責任感のみでやっている状態である。本来自分がやりたかった保健師の仕事が全くできず、存在感を感じられない。
今の担当が、保健師1人しか部署に配置されていないため、一人で悩み考えこむことが多い。相談できない。責任が重いと感じる。自分のやりたいことができない。
今の担当が事業運営のため、住民と接することが減り、事務作業が多く、保健師としての仕事かどうか疑問に感じる時。又、電話対応に追われ、自分の仕事が、集中してできないこと。
今の段階では特になし、不満は仕事を行う上でどの職場においてもあるもの。たえきれないような不満はない
今の部署では、かわれる人がいないこと
今の部署では、自分でケースをもって訪問活動などの支援ができない点不満である
今の部署では、専門性をいかした仕事より、福祉職の業務を手伝わせられていること。同じ係内であり協力体制がないこと
今の部署ではありませんが、以前所属していた部署で、業務の方向性や方針がみえないうちで、「とにかく、やって…」ということがあり、仕事の目的、意義が見い出せず不満があった。
今の立場が、職種としては保健師でもあり介護支援専門員でもあり、所属は介護福祉課に身を置きながら兼職型在宅介護支援センターのケアマネージャー業務も行っている。どれも保健師の立場であることがいろいろな面で有効だと思いが何でも戻りたように感じています。
今の立場はとも中道半端である。相談にのる事も多いのでこの点では保健師という職業が必要かとも思われるが、自分の行ってないケアマネージャーの仕事の分野で、他職種と同等に仕事をするのが難しい。今の部署には保健師でなくてもよいのではないかと考える事が多い
今は、健康づくり総合推進計画の策定にかかわる業務が多く、地区に出る時間が少なくなっているが、かかわるケースを大切に、援助していきたいと思っています
今は、特にない急な仕事を一方的に押しつけられた時(一緒に仕事を組む人との人間関係)
今は、特別な不満もなく、余り満足感もないが、以前は、同じ業務をしているのに、仕事の比重が重すぎて、後輩に対して「給料分は動いて」と不満をもっていた時期もあった。
今は、福祉施設にいて、来年度に、本来の保健業務の本庁に戻る過渡期なので、整理段階にある 職場から要求されるものと、自分の気持ちのジレンマがある
今はあまり不満はないのですが、新しい知識を獲得するための機会が欲しいです。2人以上の保健師が同じ研修や出張に出かけると上司の機嫌が悪い
今はないが、上司が仕事を理解してくれず、企画等に制限しすぎるとき又、行った事業等の評価を正当にしてくれないとき
今は行政にいますが、民間で働いていた時と比べて、周囲に向心、追求心を持って自分の仕事をしている(できている)と感じる人が少ない。いつも同じようなことを同じようなやり方でやっているように見受けられる。生産性、効率性の低い仕事への取り組み方はどうにか改善できないものかと思う。
今は仕事におわれていて他のことが考えられない 今後のこと等考える余裕が欲しい
今は思いつきません。
今は思いつかない
今は人員不足でコンディションが悪いですが皆の協力体制があるので何とかやっている不満とはなりにくい
今は正月休みなので、そんなにストレス、不満はないが、去年4月～は、業務量の増加、人手不足等で、ほぼ毎日残業続き(10:00過ぎることが多い 朝になることも…)で、心身ともに疲れた。集中力もきれ、安易なミスも多くなったような気がする。その上、「地域に保健師の姿がみえにくい」などの評価もあり、地域にたいが、業務量は増え、振返さみのような感じだった。必要だと思ってやっている事業の予算をカットされていくこと。仕方のない事でも、見直しも必要部分もあると思うが、少しやりきれない気持ちになった。
今は特に思わないが、職場内で保健師の仕事をもっと評価されていないのが不満だった。また、保健師の仕事は数値で成果が出にくいところがあるように思うので、PRが難しい。
今は保健師の仕事をしていると言うより事務職をしていること。
今まであまり経験はないですが、自分が納得できない業務をする時は不満が出てくると思います。
今までならある程度、自分の判断で仕事が進められたのに、今の上司になってから、ささいなことまで、逐一報告して、判断を仰がなければならなくなった事、仕事が、進まなくなってきた(上司は、本庁に在席)
今までの事業の見直し案を提言しても、従来の事業に流されて、改善されない点が多い
今までの実績を適切に認められないとき。
今まで慣れている係から、去年5月、異動となり、係長職になった為、仕事内容の把握も十分できていない市町村合併、母子保健計画などあり、毎日が、私にとっては、精一杯すぎます。
今まで事業をやってきたことはどうだったのだろう。過去の経験を生かして今の事業や今後の事業をどう展開していけばいいか、今までの基礎がもたらさずには仕事をやっていいのだろうか 住民とのつながりができた今、保健事業を展開していく為に住民の力をいかにあつめて他の部署と連携してやっていくには上司をどう動かしていったらいいかわからない
今まで事務はせずに管理職になったため事務能力がなく、そのことで批判される時
今まで積み重ねてきた保健師としてのものを生かすためにいることに悲しみを感じています。保健師が関わらざるべきもの、関わらざるものに対し、保健師が動くのではなく事務職のみで動いていることに疑問を感じ、何のために保健師を介護と福祉係に配置しているの？と問いたくなっています。一知遇困難ケースに関わろうとしても…理解が得られません
今まで福祉職、事務職の配置箇所保健師として配置され、周囲も保健師としてみるのではなく、福祉のケースワーカーとしてみていてみる部分が多い。ケースとのかかわりの中で予防活動にも視点を置いてアプローチするが関係の事務職からは理解が得られにくいように感じる。
今やっている仕事が保健師としてやるべきことなのかどうか疑問に感じる時
今後、仕事をやっていけるのか不安がある
今更言ってもはじまらない
今行っている仕事の多くが事務で保健師としての活動ができないこと。もっと保健師として経験を積みたい。
今年から、業務分担になり、PHNが分かれて配置され、定数により仕事量に差が出てきた。みんなが急がなければまんして自分もがんばるが、人が多くて、余裕でありながら、手伝ってくれない仲間がいる。現実には初めの頃はイライラした。今は、見えないようにしているので、自分の仕事内容に関しては不満はない。
今年から予算、補助金申請等事務の割合が大きくなり専門職としてつちかてきた経験がなかなか生かせない
今年に入り異動し、仕事内容が自分自身の中で理解できず、仕事に対して前向きにとりくむことができなくなりました
今年度から新しい職場に変わったので、今は何の不満もない
今年度から組織再編の流れで保健部門と福祉部門が合体(ライフステージ毎に住民ニーズに答えるべく3つの課にわかれた。名目は立派だが保健部門のマンパワーの確保もここ10年位なかった上に今回の再編で保健師が3ヶ所にわかれてしまい、業務そのものが成り立たない状況が強いられる。同じ保健師同志の情報交換もままならず連携したいと思っても個人レベルで可能どころと組織全体の中でとらえるべきところがあると思う。今は日々業務の忙しさに追われ個人の判断の中で情報交換できることとまっている。もっと情報がいいたいと思っても入ってこない。保健師だけの係でいる時には常に集団としてのとらえられ方をされ、その評価の低さに自己効力感がかなり低かったが各部署に少数になるといいにつけ悪いにつけ1人の行政職としてみられることが多く努力もかなり必要とされるがやりがいも見い出せる気がする
困っていることを十分に相談する時間がとれないこと。
困っているときに、相談しても具体的な解決に結びつかないこと
困っている相手に自分の立場では何もできない時(権限や公的な立場…)
困難ケースが多く、丁寧な対応をしたいと思っても、業務量の多い中でなかなかできないような時。
困難ケースに出会い、どのように関わっていけばいいかわからない時。又、関係機関と連携しても状況が変わらない時。
困難ケースや複雑なことを言われて(苦情など)自分の立場や職種ではどうにもできないときに無力。
困難ケース等で、他の機関との意識のズレを感じる時など
困難な業務、事例にあたらないといけない時

困難な仕事内容を全て、まかせられ、上司(事務職)が手伝ってくれないこと、そのことに追われ日々処理すべき仕事ができなきていない。同じ仕事の担当であっても、訴えても耳をかしてくれない。
困難事例(精神・アルコール依存症)があり、自分では判断ができず県(健康福祉センター)へ相談したところ、電話のみのアドバイスにとどまり、訪問等に来てもらえず、市町村で対応するようという姿勢だったのでとても残念に思えた。年末年始の休み中に緊急の場合呼び出しがあるかもしれない状況でストレス(気がかり)があった。自分の仕事で、勤務時間(8:15~17:00)内にとどまらないこと(例えば呼びだし等)が少しストレスとなる。仕方ないとも思っているが…。県から提出を求められる様々な調査、報告物。必要なかな?と思える調査・報告は少しでも減らして欲しい
困難事例が連続すると、精神的につらい。ケースが少ない時はよいが、増えてくると限界を感じる。が、1人職種なので他におねがいできる人がいないのが、きつい。(一実施は、福祉職の上司などにおねがいできるのだろうか、そういう(保健師さんよろしく!という)雰囲気がある)
困難事例にあった時
困難事例に関する相談は、すべて専門職に回しかかわらうとしない事務職がいる時不満。
困難事例に遭遇し、制度や社会資源を最大限活用しても、解決できないケースを抱えた時
困難事例に対する際、気持ちの切りかえができず精神的に落ちこんでしまう時
困難事例の対応などすぐに解決できないことが度なり、自分の中で、優先順位がわからなくなってしまう時に落ち込んでしまいます。またそんな時に話し合い語り合える仲間があるということがいかに大切かとおづく感じます。年下の人の話をもっと聞かなければと思っていても、時間がとれず、後悔することが度々です
困難事例への対応について、地区担当保健師にまかされているので責任が重い。上司や先輩に相談することはできるが一人に対応することが多い。複数対応できる体制がととのっていない。どんなに苦勞しても事務職の人にはわかってもらえない(「それがあなたたちの仕事だ」と)。
困難事例への対応について「絶対それでいい」という保証はなく、悩みながら対応することが多い
困難事例への対応を検討するとき・地域の社会資源の乏しさ・相談できる場のなさ・地域にスーパーバイザー的存在がいけないこと。
困難事例への対応を複数抱えている時に介護保険の認定業務との両立が難しいと感じている。しかし上司及び同僚の協力が得られるので現在特に不満は持っていない。
困難事例等、まかせられっぱなしで、協力・助言等が得られない時
根拠に欠ける事業内容や指導を遂行しなければならない時。
最近になり、人事が変わり平凡な日々が送れています。いまでも住民ニーズを施策化するため努力し、住民に支えられ、頑張ってきました。何か自分にも良いところがあったのでしようが内部の協力は得られない状況で、精一杯事業をおこし、と組んできました。
最近、評価してくれる上司に恵まれているのであまりない。前向きな考えなので、あっても次の日にはほだいたい忘れてる
最近を感じることは少ない。自分中心というより組織中心と思うようになってきた。町合併、財政問題など町自身が大きな課題に立っているため、その中で専門職として自分の力を出していきたい。
最近は何もない。委託料の支払いなど、件数を数えたりする。保健師でなくても良いと感じた業務には不満があったが、人と接すること、事務との両方で、良いと感じることもある。
最終的には、自分達の首をしめるような他人の発言でも、他人が話したい気持ちにまかせて話したあとの仕事上の調整にえらい気をまわさねばならないとき。
細いことで忙しく、まとまった仕事ができないため充実感に乏しく不満となる
細い道が多く車での訪問に不安を覚えることがある
細かい不満はあると思いますが、部下からの目、部長や関係の課長の目が自分でも意識し過ぎるのかと思う、その為一生懸命している仕事に対して「私を評価して…」という不満がある、答えになっているかどうか
裁量範囲がきわめて小さい事。
在介としての歴史はまだ浅いこともあり、行政の中でも理解されにくいこと、ケースの内容によっては、助言してくれる相談先がないこと。以前はケースのこと、職場の人間関係などでやうつ状態の時があり、自分の弱さまた強さもこの職場でふりかえることができた。上手にストレス解消をし、まだまだとレールのひかれていない在介の仕事を実践現場の中で形あるものにしていきたいと思う。
在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所の2枚看板の業務を行ないながら事務処理も多く、ケアプラン40ケース+管理業務は通常業務ではこなせない。残業が非常に多くなんとか処理している。相談、ケアマネ、ケアプランの業務は、本来なら1ケース1ケースが大事で時間もかかることを、ベルトコンベアのような作業の流れを強いられる。反面ではモニタリングとか見なおしとか介護保険5年目を迎えるかんに質について言われるが、現場の業務量の多さを見直すべきではないか。今一度面接技術、カウンセリング、対象(人間)理解について専門職の研修が必要なのが現場である
在宅介護支援センターで、居宅介護支援事業所もおこなっているが、複雑ケースになると、すべて肩にかかってくる。社会福祉司もいるが、その人の手にはおえない事も多い。医療と保健と福祉の連携がうまくいかないと、仕事が大量になる。同じ職種がいないので、その代替えができずこまっている
在宅介護支援センターでケアマネジャー業務で働いており、担当ケースが60件程度で日々の業務に追われ、達成感を感じられない。介護保険制度の限界を感じています
在宅介護支援センターに勤務していますが、居宅介護支援事業所業務なのでケアマネジャー業務に追われ、地域ケア会議や質向上などの目的が達されません。
在宅療養者や介護者を支援するために始まった、介護保険だが、施設偏重となっていること
財政があまりよくないので、事業も縮小傾向になっているため、なかなかしたい事業を新規で立ちあげられない。
財政的な面もあり、保健事業を担当する事務職がいけないこと。もう少し事業量が減れば、外に出ていく機会も増えるのと思う。又、保健事業は保健師がやるものという思いが課の職員はあるようではなかなか協力が得られないこと、理解してもらえないこと。
財政的な問題等で思うようにサービス提供ができない時
財政的バックアップがない中で、事業量の増加(子育て支援や健康づくり等求められている事は大きい)
財政難から保健事業の予算が削減されていて新規事業はもちろん既存事業でも縮小傾向にある、また町民の負担もふえつつある(サービスは低下しているのではないかと)特に社会的弱者の方は…
財政難などの理由から、具体的に協議する事もなく予算や事業をカットされること
財政難のおり新規事業等、あらたな企画は採用されない人も増えない、いろんな面で縮小ばかりで気がめいる。やりがいも少ない
財政難の為、新規事業は、全く予算措置できなくなった事。事業内容も、お金をかけずに出来る事を、模索していかなければならないのは、大変な事。
財政難を理由に必要な専門職の配置や協力が得られないこと、その為内容的に十分な支援ができないこと。
財政面で事業できるか決まること。(必要な事業だと思っても、財政課で切られる)
昨年、配置がえて職務が、保健師から事務職と係長の職務へとかわりました。不満というより、変化についていくのが必死で、日々覚えることが多く、現在に至ります。異動前と異動後では随分考え方がかわり保健師でいた時の方が、不満があった様に思われます。(人手不足、予算不足、休めない…)今は、この変化を自分の将来のために、すべてプラスになることと考えられるようになりました。多くの初めての仕事を与えられるということは、ストレスになるけれども、のりこえれば必ず自分の財産になる…と思える様になりました。
昨年4月に地域福祉課より7年ぶりに保健の分野にかえてきた。受け持ち地区は、退職した人の後任で、引き継ぎが不十分であった。引き継ぐ時間も余り保証されなかった。業務の見学参加はほとんどできず、8か月たった現在も、物のあり場所すら、よくわからない。マンパワー不足で、皆忙しそう聞いても不十分な返答しかかえてこない。
昨年まで事務職が行っていた事業を担当したので、補助金に係る事務に忙殺され、保健師としての経験が、あまり生かされていない。
雑々とした事務仕事(報告やアンケート)に追われていること。
雑務が多く、時間をとられて、自分の担当の仕事が思うようにすすまないこと
雑務が多く、専門職でなくてもよい仕事が多い。もっと地域活動を行ってきたい。
雑務に追われて専門技術を発揮できない。専門的な業務の質を担保しようとすれば、恒常的なサービス残業に陥り健康に障害を生じてきた。対人サービスなので適当な所で切りあげられないジレンマに陥っている。
雑用にかなり時間をさかれるとき
雑用ばかりで一日が終わってしまうとき。(一年目なので仕方ないのかもしれない)
産休、育休、病休者がいる場合専門職の確保がむずかしく、いるスタッフで仕事をこなさなければならないことが多く、年間計画に追われる毎日を送るのが精一杯で、じっくり考えたり、研修したりする時間の確保がむずかしい
産休、育休の代替職員の補充が十分でなく、1人の担当(受けもちの事業)が多いので、1つの事業にかけられる時間が少ないこと
産休育休中の職員もいることから、業務内容が多すぎ、毎日の業務消化のみに追われている。健診や相談から個別フォローすべきケースも多々あるがほとんどできる状況ではないことが、保健師本来の業務ができないと感じや不満足に感じてしまう
残業なんて好んでしているものではないのに、上司や財政担当の方からは、残業時間がわりあてられ、残業が多いことが悪いことのような扱いをされること。ケースワークは事業とちがいが見えづらい(評価しづらい)業務かもしれないが、とても時間と労力を費やすものでもあるし、自分の計画通りにいかないこともある。保健師の業務量の多さを分かってほしい。
残業をしている人が業務量が多いと決めつけてみられることは納得できない。仕事量を考えながら優先順位をつけて、業務を遂行する姿勢を評価してもらいたい
残業をしても全く手当てがつかない
残業をしないと仕事が片付かない程度が多いこと。
残業をしなければ、業務が片付かないこと。
仕事があるだけありがたい。でも派山の人が居て、役所の不文律の中でうやむやになることがあると、おかしな事だと思
仕事がいづつも重なって大変なのだが、周りの人になかなか協力がたのめない(周りの人も自分の仕事をもっているの)
仕事がいける重なる時に、時間不足、自分の要領の悪さなどで十分に満足いくことが出来ないなと思う時

仕事がうまく進まない時、多忙の時
仕事が進まないのか残業がつづく時
仕事が進まないとき
仕事が進まないのはなぜか、例えば、職場の人間関係、段取りの悪さ、時間の制約など、活動を理解してもらえない時
仕事が進んでいない時。
仕事が進んでいないのに、それをわかってもらえないとき
仕事が進んでいない時に限って上司から仕事を頼まれる事が多い気がする。仕事をあまり評価してもらえない時。手間がかかるが、重要でない仕事を言われた時は「雑用ばかり…」と思うが、仕事は基本的に好きなので、とりあえず考えないようにやっている。
仕事がない。異動前は1時期3つの事業をこなしていたのが、あたりまえだった。仕事に余裕があるのは良いと思うが…。介護保険のケアマネも変化があれば忙しく飛び回るが変化なしの1月分は、つまらなすぎる。(良い事なのだろうか)
仕事が進まなくて、自分自身の能力に自信がなくなっていること。
仕事が進まないこと。
仕事が進まなくて、窓口業務等で中断が多いため集中できない
仕事が進まない時
仕事で医療費を下げるためという目的で使われること。
仕事で何でも屋になりがち。業務を整理したり、組織としてやり遂げる力不足。自分の能力ということになってしまう。
仕事が進まなくて、形にあらわしいもの予防、育児不安に対するetc センター内であればわかるが外の部署だったら、何しているのかわかりにくいだろうな
仕事が進まない 臨時職員
仕事が進まない時
仕事が進まなくて、緊急度があり何もかも抱え込みすぎていると感じている時。ひとつひとつの事例を大切にしたいが、事務的なPHNでなくてもできることに時間を使い、十分な対応ができていないと感じた時。
仕事で個人に集中する事、スタッフが皆経験が浅く、充たない協力を得ることができない。しかし、この点は、他市の業務量と難易度であれば、問題にはならない程度のものであるが、本市については、若い優秀な保健師と考えると、中堅スタッフがほしい
仕事が進まないように思うようにすすめるれない
仕事が進まないようにすすまない時
仕事が進まなくて、はかどらないこと(事務処理等)
仕事が進まなくて、住民の方との思いがうまく伝わらない場合。
仕事が進まなくて、進まない時 思ったより協力体制がとれなかった時
仕事が進まなくて、進まない時
仕事が進まなくて、次々増えてきて処理できず、山積みになっている時
仕事が進まなくて、(たくさん業務が増えて)業務が多くなる時、仕事の効率化をして業務を減らすように言われても、目の前の仕事を整理するのに一杯になっている時
仕事が進まなくて、さばききれないと感じる時、負担が重いと感じる時体調が悪い時、つまり余裕のない時
仕事が進まなくて、忙しい時
仕事が進まなくて、精神的にイライラします
仕事が進まなくて、なかなか仕事が進まない時
仕事が進まなくて、どこから手をつけて良いかわからない時
仕事が進まなくて、時間内にできない時 その気持ちを話せない時
仕事が進まなくて、忙しい時に、入口近くに席があるので住民、企業との対応等何かと席を立つ時。
仕事が進まなくて、なかなか処理できなくなること。
仕事が進まなくて、忙しい時間がないとき
仕事が進まなくて、忙しい時
仕事が進まなくて、忙しい時
仕事が進まなくて、(重なり)思考とまとめがでず、業務を流してしまっている時に自分自身の力量不足を感じます。保健師の仕事は奥が深くやりがいを感じていますがもっと時間がほしいと感じることが多くあります
仕事が進まなくて、(増えているのに)人員は増えず減になる話があるので
仕事が進まなくて、(新しい)情報の収集、整理が出来ない時、仕事(主に地区活動)の見直しが出来ない時
仕事が進まなくて、(多)考えながら、仕事が出来ない時。(ただ、やっているだけのとき)
仕事が進まなくて、(多く)いかにこなせなかったり、知識の習得ができない、多すぎる情報を整理できないなど、不完全感があること。仕事の効果として見えにくいこと。
仕事が進まなくて、(多)なかなかこなせない又入所させてもらっている事業所上司の理解が得られないとき
仕事が進まなくて、(多)すすんで進まない時
仕事が進まなくて、(多)業務の量がスタッフ間で均等でない
仕事が進まなくて、(多)多岐にわたるため充分こなすことができない
仕事が進まなくて、(多)多様化しすぎて、本来の自分のすべき仕事を見失いそうになる時がある
仕事が進まなくて、(多)単調になって来ているかもしれない。不満という訳ではないが。
仕事が進まなくて、(多)段どりよく、すすまない時
仕事が進まなくて、(多)適切な評価をうけない時
仕事が進まなくて、(多)幅が広く、どうしても遅くなってしまふ時
仕事が進まなくて、(多)忙しい時に限って、いつも期限を切られた仕事が入ってくる。冷静に判断できなくなることがある
仕事が進まなくて、(多)役立つか、役割は？
仕事が進まなくて、(多)していくには技術のアップのために専門職として学習することが必要だが、大学や大学院で学ぶための就業時間の考慮がない。
仕事が進まなくて、(多)終了しても充実感がない。結果がすぐみられない。
仕事が進まなくて、(多)そのものより、スタッフ体制の問題、人員の確保が計画的に行われていない
仕事が進まなくて、(多)そのものよりスタッフとの間に、仕事に取り組む際の意識や姿勢に対するギャップを感じる事が多い。専門職としての自覚が不足している職員がいる場合の係長としての指導的役割が希薄であること等、悩みが多い。
仕事が進まなくて、(多)判断できなかった時
仕事が進まなくて、(多)いきづまった時に、気軽に相談・アドバイスをうける人がいない。自分にアドバイザーが欲しい(先輩)
仕事が進まなくて、(多)できる時間に対し、仕事量が多いため、やりきれない。自分の仕事以外で時間をとられることも多く、ケースに関わる時間も思うようにとれない。やりたいができないジレンマがある
仕事が進まなくて、(多)つかれている時。仕事が進まない時。
仕事が進まなくて、(多)つかれている時。仕事が進まない時。
仕事が進まなくて、(多)ではなく、人間関係がうまくいかない場合
仕事が進まなくて、(多)仕事というより、公務員の年功序列の考え方が大きいことには疑問を感じることがあります。
仕事が進まなくて、(多)仕事とプライベートの時間の境界がハッキリしない。
仕事が進まなくて、(多)仕事と家庭(家族)に病人が生じ介護(嫌)との両立について 上司に悩み相談しながら対応しかし職場の周囲へ負担をあまりかけての仕事となれば退職を考えねばならず
仕事が進まなくて、(多)仕事と家庭の両立
仕事が進まなくて、(多)仕事と家庭の両立に関するジレンマ 業務量が多くなると同時に勉強するべきことも多く、時間外の仕事や研修参加、交流会参加も必要となってくる。時間外のそういった活動は責任をはたす上でも、自分の仕事の質を向上させるためにも大切な時間だと思いが、家族に追い目を感じることも事実である。「時間外の仕事は絶対しない」と割り切られているぐらいの方がこういったジレンマに悩まなくていいのかもしれないと思うがその分の負担を同僚におしつけるほど鈍くはなりたくない。日常業務でもこれなので、結婚・出産になると、なおさら「同僚への配慮」と「自分の権利」とのジレンマに悩む。本人にその意はなくても「先に妊娠した者勝ち」のような負担が残された者にかかるのは否めない。
仕事が進まなくて、(多)仕事と係長としての責任の重さ、大変さを理解してもらえない時。保健師の仕事を理解してもらえない時、理解してもらえないように自分が説明できないとき(納得してもらえない)
仕事が進まなくて、(多)仕事なので時間外になっても、屋敷抜きでも、がんばっているが、やはり職場の人達にも保健師の仕事内容を理解してもらいたいし、一言声をかけてもらえたらと思います

仕事に、というより、自分の知識や能力不足を感じた時にストレスを感じる。
仕事に、というより自分がもっている仕事の量・質についていけず、こなせないのが辛い
仕事におわれている時
仕事にきれめがなく1つ解決しても次々と困難な事が出てくる
仕事にじっくりと時間をかけられないこと
仕事について指導もないのに平等にみられない時。
仕事について不満はありません。
仕事にというより、なかなかスムーズに仕事をすすめられない自分に不満。仕事ははば広く、やる事いっぱいなのでついでにいけないような気がするが不満はない。
仕事には不満は特になが
仕事に関しては誠実に行なっていると思っていますが、市民からのクレームなどで、結果的に市民のサービス向上につながっているのだろうか…と不安になる時など、「こんなに奔走しているのに…」と(自分の)無力感を感じます。
仕事に区切りがない
仕事に時間的な余裕がなく自分なりにがんばっているものの、自分の担当している地区へのかかわりなど、他と比べてできていないと感じるところ。
仕事に対してではなく、自分のふがいなさがイヤです
仕事に対しての不満はありません。ただ保健師という技術職と行政職を兼ねており、8割は行政職としての業務です。役所の職員定数としての保健師数となるため、保健師活動が薄まるのが心配、また上になるに従い医療職から行政職へ変わることも視野に入れてほしいとの総務課指導です。今後行政職オンリーになった時に果してやれるのか行政職としての基礎づくりがないことなどから自信はありません。
仕事に対しての不満は特にありませんが自分自身、まだ積極的に動けなかったり対象者との関わり未熟さに不満を感じることはあります。
仕事に対しては、ないです。自分自身が自己研鑽して、がんばらなと…と、思います。ケアマネジャーへの支援は、難しいです。
仕事に対しては今の所ありません。忙しいなりに楽しんでいます
仕事に対しては不満はありません
仕事に対しては無い(期待されている内容に気付かない自分や能力以上に期待されていることに対しては不安と困惑があります)
仕事に対してやる気がなかったり、仕事量がかなり少ない同僚がいる時
仕事に対してよりも、仕事がうまくできないことへのいら立ちや焦りなどが大きい
仕事に対して具体的な不満はない。
仕事に対して周囲からの理解がえられない時
仕事に対して上司の理解が得られない時(理解しようとしてくれない時)
仕事に対して不満をもつことは、あまりありませんが、町行政の中で保健サービスに対する評価がとてども気になります。トップとの考え方・感じ方が違う時に、その気持ちうまく伝えることができず、自分でくやしい思いをずる時があります
仕事に対して不満をもつことはないが、進行中に何で看護職でありながらどうしてこの辺が歩み寄れないのだろうと、疑問を感じることは多くある。
仕事に対して不満をもったことはない、仕事をしながら、自分の力不足に対してはいつも悔しい思いをしている。介護保険との連携をどうしていくといいのか？介護者へのフォロー、対応を保健分野の保健師として、介護分野と保健師とどう連携をとっていくといいのか悩む。
仕事に対する、対象者からのフィードバックが非常に得づらいところ
仕事に対する考え方がスタッフ(PHN)間でもちがうので、しんどい
仕事に対する評価が、自己評価でしかないこと
仕事に対する不満ではなく、自分の仕事能力に対する不満です。所属する課は、同じですが、26年間小さな町の保健事業のみ担当してきた立場が、2年前より福祉分野(事務も含めて)の担当となりました。職種の違いの面ではスムーズですが、行政職としての学習を怠っていたので、厳しい日々です。
仕事に対する不満ではなく、自分の能力不足、力不足のため業務の遂行に支障をきたし時間がかかってしまう。スタッフの人数不足のため現在のスタッフ全員疲労がみえ、現在の介護保険の申請～認定、各居宅介護支援事業所、各サービス事業所等との連携をとりながら市民サービスの向上充実の仕事を充分満足している。自分の性格等に合った業務であると思ふ。楽しいです。
仕事に対する不満ではなく自分の仕事能力に対する不満です。所属する課は、同じですが、26年間、小さな町の保健事業のみ担当してきた立場が、2年前より、福祉分野(事務も含めて)の担当となりました。職種の連携の面では、スムーズですが、行政職としての学習を怠っていたので、厳しい日々です。
仕事に対する不満というよりも、住民の求めているものが、本当は何なのか(本音と建前)がわからないことに対して不満を感じる。
仕事に対する不満というよりも自由に(数事専任を気にせず)仕事時間がもてればと思っています
仕事に対する不満と聞かれてもすぐ思い浮かぶことは特にはありません。
仕事に対する不満は、まだ持ったことがないです。むしろ自分に対して知識や技術の不足を感じます。あえていうなら、事務業務から、地域のこと、窓口、電話対応等の仕事量として今の私には少し多くうまく処理できているか不安になります。
仕事に対する不満はあまりない。やるべき事がうまくこなせない自分が嫌になる。
仕事に対する不満はない。自分自身に対する不満も多くあり、特に仕事への不満として考えたことがない。
仕事に対する不満はない。
仕事に追いつけずぎている アンケートや統計・他団体からの依頼が多すぎる。休日や夜間に原稿を書いたり、集計をするなどで体が休まらない
仕事に追われている状態であるので、じっくりと考えたり、事業計画や、改善方法等が検討できない。担当者制であるので、一人で悩むことがある。
仕事に燃える情熱がもてない
仕事に不満が分かりませんが、住民から相談をもちかけられても、どう対応して良いのか分からなくて自信が持てないのが不満(?)です
仕事に不満はありません。自分が今の仕事にやりがいを感じないだけです。
仕事に不満はない。(健康と病気あるいは、死を対極的に考える保健活動に行きづまりを感じる ・仕事を重ねる度に、環境問題、行政問題、商業ベースの健康問題、人間関係等様々な要因が重なり人の心身に影響が出ているんだなあと思う、通り一べんの食事栄養運動指導がて先活動にみえる ・健康状態は、その時代のあり方が如実に表現された現象
仕事に不満はない。自分の能力、気力が仕事についていていない。不安がある
仕事に不満はないが自分には不満がある
仕事に不満はないです。自分が、専門職としてどのように活動すればよいのか、自分の中で悩んでいます。
仕事に不満をもつことはありません。自分には不満ももって
仕事に不満をもつことはありません。
仕事に不満を持つことはありません。自分の力不足を不満に感じることはあります
仕事に不満を持つことはない。前向きに考えている。
仕事に不満を持ったことはないですが、自分の力不足に悩む時もあります。
仕事に不満を持ったことはまだありません。
仕事に不満を持つというより自分自身の力不足を感じる時
仕事に不満を持つのは、専門性を活かさない仕事を、他の事務職ではなく、自分に「やるべき」と命令される時。一自分には何でも学びになると納得させてやることはできるが、なぜ事務職がやろうとしないのか？どうしても納得しにくい事がある。
仕事に無責任な人がいる。(周りの人(スタッフ)を考えない人)そんな時に仕事をしているとむなしくなるときがある。
仕事のおろし方が一方的な時
仕事のかたより
仕事のことを私生活に浸ってまでも考えてしまうことがあること。
仕事のしめきりが厳格すぎる時
仕事のスピードがおそいのか、性格なのか、雑務をたのまれることが多い。仕事の評価がみとめられていない。
仕事のなかみが次の施策につながりづらくなってきている。
仕事のバランスが取れていないことに対して…
仕事のみのおしや評価する時間がない。
仕事のやり方に個人差が大きすぎる マニュアルがない、基礎とするものがない！！
仕事のやり方のちがいが、目標が同一でも、方法論は、個別化していいはずが、押しつけられている
仕事の押しつけ合いで真面目で弱い者に強くなっていく相手への配慮、思いやり、平等性(仕事量、人間性としても)がほしい。特に保健師はそうあるべきなのだと思う
仕事の下請けのような雑務も多い、これも仕事なので、仕方がないが、「専門職ならでわの」と云われながらと、実際とのちがいがあ
仕事の解決が複雑で時間がかかりずきりとして結論がでない
仕事の企画や、対応方法について自分の考えが全く生かされない時 納得のいかないまま、仕事している時

仕事の効率が悪く進まない。→Telかけでも対象者の留守が多かったり、訪問しても留守世帯が多く聞かれぬ。又他の業務も重なり、仕事はどんどん滞っていく。室内環境(乾燥温度換気調整)の問題もあり体調を崩し易いのも拍車をかけている。
仕事の事をよく理解できていない時、勉強しないといけないと思うが勉強する時間がない
仕事の実績と実際の評価指数(住民の健康度等)との結びつきが見えづらい、(もっと系統的に1つの事業に集中できると、学べるのかもかもしれない)
仕事の主旨や経緯を無視して、予算削減のため、回数、実施方法を変更し、といわれること
仕事の種類の多いため、分からないこと勉強したいことが、たくさんあるが、消化できずにいることに、辛さを感じる。
仕事の受けもつ数が多いため、1つの事業に集中してできない。決算、財務会計、連絡調整などいどにしているため負担が大きい 家庭訪問等地区へでていく時間がない為、ケースが残ってきている状態がつづく
仕事の出来る人、する人ほとんど仕事に来て、しない人のフォローをすればする程仕事が忙しくなる傾向有
仕事の処理等電算化しているところ
仕事の成果を数字で表すことが困難であり、周囲の職員から評価してもらえず、仕事が進まない、言われていること
仕事の成果を数字のみで判断されること 質を高めたいと考えても、業務量の増加の中でも人員が削減されてしまい納得できない仕事ばかりとなっている
仕事の成果等が公平に評価されないとき
仕事の責任が他職種の上司一主任や係長級の専門職より重いこと。
仕事の責任のあり方が複雑にからみあっている時が多い。役割分担が明確でないためにおこなうためにいらぬエネルギーを使う。
仕事の先行きが見えない時
仕事の粗立てができず能力が悪くなっているのではない、時間の使い方がへたなのでは、ケースにふり回されているのでは、いつも考えています
仕事の相談をしたとき、「まかせから」といわれ、話にならない時
仕事の対象者が個人であり、仕事の内容が単調 同僚との意識の違い
仕事の対象者や分野が幅広いためいろいろな問題に対する対応に自信がもてないことがある。又ここまでやり切ったという実感をもてる前に事業におかれている 保健師職の中で年長者であるというプレッシャーもある上に直属の上司の理解のなさ、上司として責任を果たして下さらないことからくる精神的ストレスを感じる毎日です
仕事の大変さ以外で人間関係が仕事を停滞させるため。職場のすべての人が一生懸命はたらいてほしい。仕事(業務量)に人により偏りがあること
仕事の担当が、力関係で決まるなど本来のよりよい形を検討した上で配分されない時、あるいは連携して調整されない時
仕事の段階のふみ方が自分でわかっておらず なかなかすすまない時
仕事の中で責任をもたされている件でどこまで自分の役割なのか、悩むことがある。又、負いすぎることもあり、コントロールしていくように気をつけている。
仕事の意味というよりも職場の人間関係。
仕事の適性について
仕事の内容、今まで、しなくてはならなかったこと仕事(例えばばかん検診前の衛生教育)をしなくてもよくなったり、中身が猫の目のようにコロコロ変わること
仕事の内容から困難な事例等、時間、労力を使うが内容的な評価がむずかしく、数的な評価で判断されたりすることが多いのでは
仕事の内容が事務作業的なものばかりのとき。(文書の整理・資金の支払いなど)
仕事の内容が事務作業的なものばかりのとき。(文書の整理・資金の支払いなど)
仕事の内容が評価されないとき
仕事の内容そのものに今は不満はない。保健・福祉・医療全てがごちゃごちゃして分らなくなる時がある
仕事の内容そのものに対する不満は全くない。自分の力量不足から、満足を得られないことはある。
仕事の内容ではなく、人間関係だと思います。協力しあえる関係なら、健康を害することもないと思う。
仕事の内容ではなく、体制に不満がある。派遣職員ではなく、正職員の配置及び増員してほしいが、なかなかむづかしい。仕事量としては、今後、増える見込みのある場所だと思うが、上司(首長も含めて)に、ほんとうの意味で理解されていない。そのあたりで、そこそこやらせておけばよいという感じがある。また、事務職も机だけでなく、現場に出向いて、いっしょに改善していくという姿勢に欠けている。熱意が感じられない
仕事の内容について必要と思われる事をうまくタイムリーに出来ない場合。
仕事の内容に理解を得られなかったり、必要とされなかったりする時
仕事の内容の問題か、自分の心の問題かは分かりませんが、仕事に関していつも満たされない気持ちはあります。もっと頑張らなきゃ、地域のことを考えなきゃと思う反面、頑張っても何も変わらないのじゃないか…と思ってしまう。適当な自分が嫌にもなります。もっと、職場内で色々な事に本根で話し合えればよいと思うのですが…
仕事の内容や量が、適正でないと感じた時(多すぎる、私の仕事ではない等)
仕事の内容より、自分ができてないところやわからないところがあるのではという不安や自信のなさが出てくる時がある。不満というより、いいのかな?これだという思いが時々でてる
仕事の内容をなかなか理解してもらえないこと。(他職種に)
仕事の内容を上司がどれだけわかっているか疑問に思う
仕事の内容を同じ職場の事務職からも評価されないこと 理解してもらえないこと
仕事の能力に欠けていると思うこともあるが、仕事量に負担を感じる時があった。特に体調が悪い時には感じる。団体組織を担われているので、達成感を感じる事が少ない。組織を変えようとすると辛い。考え方を改めてから少し楽になったが、目標が高くて、もっと頑張らなければと責めてしまうことがある。全体の仕事量が多いのもあり、他スタッフに協力を求めずらく、かかえてしまっていると指摘をうけることもある。
仕事の配分
仕事の配分が不公平なとき
仕事の配分が偏っている時 自分より上の役職者に力量、能力がないため自分が代りに仕事をしないといけない時 仕事中に昼寝をしたり、ポ一として人を見た時
仕事の配分については疑問に思うことがある。
仕事の配分や与える仕事量が、経験年数などを考慮していない時
仕事の範囲があいまいで、他の係とどのように関わっていいかわからないことがある。
仕事の範囲が決まってないこと(ただし、決まっていなくても自由でよいこともあるが…)何も権限がないこと(組織上)
仕事の範囲が広くて量的にも多いためゆとりがない
仕事の範囲が広すぎ、どれを取っても充分とは言えない忙がしすぎ考える余裕がない
仕事の範囲が広すぎて、全ての対象に深い関わりしかできない、又、組織作りで、こうしたらと思うことが、なかなか実行できずうまく進まない
仕事の必要性、手順、等がしっかりと準備されていないまま実施命令があるとき
仕事の評価の仕方がしにくく、自己満足で終わることがある。
仕事の評価や理解が得られない時
仕事の負担のかたよりがあると感じる時
仕事の幅が広すぎて自分一人では手におえない時、又広すぎて一つの仕事を深めていくことができない時。
仕事の分担(他職種との)がはっきりしないこと
仕事の分担が不均等、もう少し、平等に配分してもらいたい 会議録等の報告物が多く、負担が大きい
仕事の分担が不平等に感じる時
仕事の分担について他係の理解が得られない
仕事の分担について不満に思う 事務担当者との意見の食い違いについて職員や役職者の希望により保健事業が決まられていくこと
仕事の目的、方向性、自分にその仕事を任された意義等を十分に説明されず自分の納得のいかないまま仕事を任された時に強い不満を感じる。
仕事の目的が達せられなかった時 上司が関心をもってくれない(助言、指示なく、任せきり)
仕事の目的等が十分理解されない時
仕事の目標が設定されている目標が一致しない。
仕事の役割分担が均衡でない。
仕事の量(責任)、分担が多いように思う。家庭生活に支障あり
仕事の量、種類が多いような気がする。仕事が頭から離れないことがたびたびある。早く(帰宅できない(仕事量多いため)PM8時前後がH14、15年は多かった。特に仕事が今年度は1、健康21策定 2、精神作業所立ち上げ 3、合併すりあわせと日常業務以外にあった。小さい町(人口12,000)なので、主に(自分が)なる業務が多い、最近2~3年間は特に新規事業多い。保健業務での事務職いないので事務、予算もしている。それと保健師の現場の仕事と合わせてすると絶対的に不足
仕事の量が、時期によってかたよるところ 事務作業が多く、専門的立場をいかした教室や訪問などの事業にかかる時間が少ない。

<p>仕事の量がたまって、ジレンマが生じた時、個別への対応は、事業とが入ってくるのと充分できないし、記録する時間もほしい、訪問する時間がとれない、月報まで手が回らない、やめてほしい。(特に子供が小さいのに、夜が多かった時は、正直大変でした。保健師にも家族があるし、母だから！) 今令や家族の状況によってもちがうだろうが、夜や休日の仕事が多い時は、心身共に大変！！地域組織も必要だが夜が多い。全体的に、保健師の仕事は、こまごまというものが少ないから、ストレスをかかえている人も多いだろう。又、地域への顔がみえながら、ニーズに合った事業が転回できるよう、これからも努めたい。(出来る範囲内で)</p>
<p>仕事の量が均一でないこと 年制的に仕方がないかもしれないが、次々に処理すべき、問題がおこり、他の人にふり分けることができない(担当者がいないようなことは、全て)</p>
<p>仕事の量が時期によりバラツキがある時</p>
<p>仕事の量が多い 事務が多い</p>
<p>仕事の量が多い。急の仕事が度々あり、計画的に仕事を進められない。</p>
<p>仕事の量が多いのと、自分のするペースが遅いことで、何から手をつければよいかパニックに陥るとき、集中して1つの事務をしましきれていないうちに、次の業務が入ってきてしまう時</p>
<p>仕事の量が多く、スピードが早いこと</p>
<p>仕事の量が多く、事業のやり放しになっている。重なる事業も多い。若い人達(同僚)の仕事に対する意欲がみえにくい。(地域へのかかわりが薄い。)</p>
<p>仕事の量が多く勤務時間におわらないこと。</p>
<p>仕事の量が多すぎて、やりきれなく、ひとつのことに十分に、時間をかけられない時</p>
<p>仕事の量が多すぎてこなしきれない</p>
<p>仕事の量が多すぎて対応しきれない時</p>
<p>仕事の量が多すぎる時</p>
<p>仕事の量が毎日多く間に合わない。ゆくりと休みがとれない。専門職と言われながら場合によってはいろいろな場面で活用される。(専門的なものから一これは仕方ない…と思っているが、他の事務職の方でもよい場合でも都合により動員される)</p>
<p>仕事の量に差があるとき</p>
<p>仕事の連携がうまくできず「仕事を押しつけられた」という風にとらえられること。皆が、いかに自分の仕事を減</p>
<p>仕事の連携協力がうまくいかなかった時。報告、連絡、相談がうまくいかず、保健師同士の意見がまとまらなかった時</p>
<p>仕事は、がんばっていても、職場では男性のほうが社会的に優遇されていると思う。</p>
<p>仕事は、本当に精いっぱい頑張っているのをそれを評価してほしいと思っています。</p>
<p>仕事は淡々とすることにしている</p>
<p>仕事への考え方が上司と異なる場合</p>
<p>仕事への不満ではなく、自分の仕事ぶりへの不満。自分がもう少しできればと感じることがある。</p>
<p>仕事への不満ではなく、自分の能力不足の為に、対象者への充分な指導ができないことが多い。</p>
<p>仕事への不満ということになるかどうかわかりませんが、事務上司に理解していただけないことが多々あります。(同じフロアで仕事をしていないということが大きな原因かと思いますが)保健師がどのように連携をし事業を企画運営していかなければならないかということを事務課長に理解する力を持ってほしい。現状では、事務が出来れば良いという感覚が強く、本課にいる保健師の業務評価ができていない。</p>
<p>仕事への不満というより、自分自身への不満が大きいです。もう少し自分の中で、積極的にまた貪欲に仕事をしたいと思っています。</p>
<p>仕事への不満はありませんが、自分自身の能力に対して不安を感じることはあります</p>
<p>仕事への不満は特になく、自分の力量や経験の不足を痛感し、自信を失ってしまうことはよくあります。</p>
<p>仕事もたまっているが、家事や同居の親父母に気を使って残業もできない時</p>
<p>仕事をいくら頑張っても評価してもらえない(女だからだということ、専門職を評価してくれる人がいないのでは)</p>
<p>仕事をこなすのが精いっぱい業務量。なかなか手をいれられたい所にかかる時間がない。</p>
<p>仕事をさせてはいただいているだけでありがたいと思います</p>
<p>仕事をしていく上で自分の思っていることが、住民、他のスタッフに対して上手く伝えられなかった時</p>
<p>仕事をしている不満は、今まで特に感じてはいない</p>
<p>仕事をしているわりには評価されないこと</p>
<p>仕事をしても終わらない時、必要な事業をしたくても時間がない。</p>
<p>仕事をしても新しい仕事を与えられること。</p>
<p>仕事をしない上司の仕事(事務)をしていること。</p>
<p>仕事をしない人がいる時(やろうとしない人)</p>
<p>仕事をしない人に対して。</p>
<p>仕事をスムーズにそして楽しく行えるように、話し合いを持つが、本音が語れず、結局、話し合いを行った成果を仕事に反映できない</p>
<p>仕事をすることによって自分で納得できず、自分の中で消化できない時に辛いです(例えば、一度にたくさんの事業があり続けたり、行ったことがなく勉強不足の時、個別対応に思いつき、他関係の人があまり動いてくれない時など)</p>
<p>仕事をすることで、職員間の関係が良くない環境にストレスが大きい。個別ケースにもっと関わりたいという思いが強い中、また、事業の見直しふり返りをしたいという思いがある中、毎日の事業に追われ手がまわらないこと。</p>
<p>仕事をすればするほど自分の首をしめてしまう。</p>
<p>仕事をやらされていると感じる瞬間</p>
<p>仕事をより充実したいと考えている時に、その考えを分かち合う同僚がいない時。その時は、とてもむなしいと感じます。同じ職場に配属される保健師の数が増えることにより、業務についてディスカッションできるようになり、たとえ、意見が食い違ったとしてもより充実させていくための話し合いができるようになったことは、本当に嬉しいことです。</p>
<p>仕事を一生懸命やっている時に、周囲の私語が目立つ時。何故か、自分一人だけが頑張っている気持ちになり、むなしくなる</p>
<p>仕事を覚えたり個々の住民さんに応じた対応をしていくのに精一杯で思うように保健師としての働きかけや役割がこなせていないことがもどかしいだけで、不満というほどのものはない</p>
<p>仕事を完璧にこなそうとすると絶対的に時間が足りないで、優先順位の低いものは、どうしてもやりっぱなしになってしまう。</p>
<p>仕事を広げすぎて、全て中途半端になるような気がする</p>
<p>仕事をを行ううえで、合理的に行いたい。たとえば、公用車を使用する際も、すぐに自由になる車がなく、町全体の集中管理されているところへ、その都度、かり上げをしなければならぬ。</p>
<p>仕事を自分では一生懸命していると思っているが、他からは認められず評価されない時</p>
<p>仕事を深くやる人と浅くやる人の2種がある。“ほどほど”“加減”がない</p>
<p>仕事を制限されること。仕事のペースを乱されること。気に入った仕事をとりあげられること。</p>
<p>仕事を精一杯努力して行っているにもかかわらず残業をしていないと忙しくない、素直にしているという見方をされ仕事内容の評価をもらえていない時</p>
<p>仕事を展開し必要性はみえるが人的、予算的に困難であり、現状維持が限界である 今後、市町村合併等により、業務の統一を余儀なくされると、さらに混乱を生じ、人的にも予算的にも、大変な状況がおこるのではないかと、これからの保健活動は、どうなっていくのか心配であり、不満でもある</p>
<p>仕事を不満に思うことはないが、所内の業務で家庭訪問の時間が確保できにくいとき、仕事の回転の悪さを感じる</p>
<p>仕事以外のつまらないこと、つきあわなければならない時 例 電気消しなさい、暖房をとめない</p>
<p>仕事以外の事で言うと、同じ年代の人が一人もいない事。</p>
<p>仕事以外の時にも常に住民の方の事が気になる時に、何かする引かずっていやだなと思うことがあります。業務外でも研修などに参加しなければ向上していけないけれど自分にその余裕と気力がない時に困ります。</p>
<p>仕事親の違う人と議論しなければならぬ時</p>
<p>仕事業務量が多く、本来保健師として行うべき仕事が多くなかなかすまない時</p>
<p>仕事時間に窓口業務が多く、事務やカルテの整理等が残ってしまう。その為、残業をしても、時間外を申請しないので、自分の仕事は時間外に該当する価値がないのか、と思ってしまう。又、いつまでたっても人員が増えず、現場の負担が大きい。</p>
<p>仕事自体が評価として数字などであらわしにくいので、すっきりしないし、他の職種に理解されにくい どのように対応していったらよいかわからないこと</p>
<p>仕事自体というよりは人間関係が大変、一部の人ですがねたみ妨害沢山ある。</p>
<p>仕事自体には不満はないが、体制には不満がある</p>
<p>仕事自体に不満はありません</p>
<p>仕事自体に不満を持つ事はあまりなく、仕事が好きできているが、感じるのは困難な事にぶつかった時、自分の力量不足を感じる事がたびたびある</p>
<p>仕事自体への不満は特になく、仕事について相談しても他人事のように相談にならない上司がいる事。また国・県の方針で事業が縮小されることがマンパワーの縮小化につながってしまう現実はある。</p>

<p>仕事上、法律や制度を細かく知る必要があり、今までの保健師(自分の)の判定で決定できる事がなく、ストレスを感じる。また一人稼働のため休みもとりにくく、利用者のトラブルで、何時間も処理にかかることが多く、常に緊張をしている。相談内容や福祉制度や社会保障制度に関するものが多く、新しい制度を理解しなければならず、広い知識が必要となり、研修が必要と思う</p>
<p>仕事上の不満といえなさなことから様々生じますが、あまり不満ととらえると自分自身がしんどくなるので「時代の流れとして求められていること」などと自分に理由づけをするようにしている。</p>
<p>仕事上の不満はあまりありませんが、問8-2について不満に思っています。健康施策への比重は正直いって認識度は低いように思います。</p>
<p>仕事上の問題点を、相談できる専門職がいないこと。</p>
<p>仕事内容が広く対応できないこと</p>
<p>仕事内容が自分には重すぎかなあ、業務量が他の部署より多いと思う人がいない</p>
<p>仕事内容が多岐にわたり、専門的知識も必要とされるが、市民や他職種の方に理解、評価されにくいところ。</p>
<p>仕事内容が多岐にわたり一つのことを兼中して、とりめがない。雑用もかなり多い、業務量も多い。</p>
<p>仕事内容ではなく、上司の好き嫌いで評価されること。</p>
<p>仕事内容などの理解がうまく得られないためのか予算がとれない 新規事業ばかりが増えて今までの事業は継続しなければならず、いつも余裕がない。</p>
<p>仕事内容については、特に無いが…自分に不満があるというべきかといった感じです。個別対応などについては、市町村保健師としてどこまで自分ができるのかすべきか就職して8年も経つというのに判断、練引きに迷ってばかりいます。また自分のとった行動、言動を後に振り返ると“本当に良かったのか？”“また失敗した。”と憂うつになることが多々あります。保健師の仕事は掘り下げればいくらでもあると思うのですが、自分が守りにはいってしまい(ex 子どもがいるから、残業は…)ルーチン業務に流されてしまいがちだったりする自分に不満です。</p>
<p>仕事内容について決定する時現場の意見が反映されない。</p>
<p>仕事内容について正当な評価を受けなかったとき</p>
<p>仕事内容について特に何も評価されないこと。仕事をこのようにしたいと思っても予算や人手等でなかなか実現しないこと。</p>
<p>仕事内容にはきりきりした評価が出ていくこと</p>
<p>仕事内容に不満はないです。ただ、人員不足のため業務量の調整が現在、偏っており、精神的な不具合はある。</p>
<p>仕事内容に不満を持つことはないが、量が多すぎ残業が続く時</p>
<p>仕事内容に不満を持つということはない。上司の姿勢に対しては不満をもっている。この部署の役割を認識して、業務を掌握してもらいたい</p>
<p>仕事内容の幅が広い上、時間的に決して余裕があるとは言えない状態なので、1つ1つの事業の準備が十分にできない。</p>
<p>仕事内容や、事業量に合った人員配置になっていないこと</p>
<p>仕事量、多すぎると思う。専門職として、というより事務的なものが多すぎる。</p>
<p>仕事量がだんだんふえてきている さばけない！ PHN本来の仕事ができていないように思う</p>
<p>仕事量がインパじゃない。このアンケートにとられる時間も、もったいないくらい…。</p>
<p>仕事量が今でも精一杯なのに、それ以上のことを割り当てられたとき</p>
<p>仕事量が重なって処理しきれないことがあること</p>
<p>仕事量が増え、ひとつの事業や一人のケースにゆとり時間をとれないこと</p>
<p>仕事量が多い</p>
<p>仕事量が多い</p>
<p>仕事量が多い 又、時によりたくさんの種類が重なった業務をこなさなければならない</p>
<p>仕事量が多い、係員一人当りの負担も大きい、1人が人口2万にをっている、出生200人以上のフォローの人もいる</p>
<p>仕事量が多い(記録時間や連絡等は勤務時間外になることが多い 他職種との仕事量の差 etc) 不満ではないが、仕事がむいていないのでは…何のためにこの仕事をするのかと自問自答する時があること</p>
<p>仕事量が多いこと</p>
<p>仕事量が多いことや人材不足のため、残業や休日出勤が多い。</p>
<p>仕事量が多いため、1つのことをしていても他のことが気になったりするタイムリーに活動できなくもかしい 気持ちにゆとりがなくなり、人に優しくできなくなる</p>
<p>仕事量が多いため十分な評価が出来ていないこと。そのため企画や運営に十分納得がいく改善等が出来ないこと。</p>
<p>仕事量が多いと感じた時。(自分の力量以上に仕事が入ってくる時)</p>
<p>仕事量が多いと感じることくらいです</p>
<p>仕事量が多い気がする</p>
<p>仕事量が多い時</p>
<p>仕事量が多く、いつも仕事におわれる</p>
<p>仕事量が多く、おろそかになってしまう部分が増えてきてしまうとき</p>
<p>仕事量が多く、きりがいいこと(じっくり、やれない)</p>
<p>仕事量が多く、多岐にわたるため、おちついて専念できない。一生懸命やっても、しよせん評価をしてもらえないことにストレスを感じる</p>
<p>仕事量が多く、目の前にある事をするだけで必死 もう少し余裕をもって仕事をしたい</p>
<p>仕事量が多く、余裕をもって考えたり、実施したりできているとは言えない。2年(経験年数)経っていないのに責任が重すぎると感じることがある。同じ係内にベテランと呼べる(経験年数の長い)保健師が配置されていないため、相談、アドバイスをもらうことが十分できない場合がある。</p>
<p>仕事量が多くこなしていくだけで精一杯である。臨時では責任をもって仕事を任せられないので対等に相談できる能力のある職員を配置して欲しい</p>
<p>仕事量が多くて、仕事時間内だけだと、じっくり考えることができない。時間に追われている感じがする。</p>
<p>仕事量が多くて時間内にやろうと思うことができなかったりする時</p>
<p>仕事量が多くて処理できない時</p>
<p>仕事量が多くなってくる 判断した事が上司によって一転する時</p>
<p>仕事量が多くやってもやっても減らない 上司が他係が連携、支援をするように言っても、ほとんど協力は得られない。(産休2名の他に結婚休か等重なったが)</p>
<p>仕事量が多く家に持ち帰る時</p>
<p>仕事量が多く時間がいつも足りない。業務を自分もしくは担当で抱えこんでしまっている。地区活動(地域に向かうこと)が大切と考えているが、今の現状からすぐに実行にうつすことが難しい。仕事のうけもつ量が人によって異なりアンバランスさを感じる</p>
<p>仕事量が多く時間内におわらない</p>
<p>仕事量が多く対応しきれない状況について解決方法がないこと</p>
<p>仕事量が多すぎて、1つ1つをこなすのに精一杯の状況になっていること。とにかく毎日に余裕がない、かといって家事・育児もあるため、仕事だけに集中しているわけにもいかない。</p>
<p>仕事量が多すぎて、こなしきれない 仕事にタイムリーさがもたられ常に余裕がない</p>
<p>仕事量が多すぎて、自分で効率的に仕事ができない時</p>
<p>仕事量が多すぎてプライベートの時間が持たない(少ない)とき</p>
<p>仕事量が多すぎる。じっくり考える時間がない。上司が理解してくれているのかどうかわからないことがある時。</p>
<p>仕事量が年々増えていること 精神的余裕がない</p>
<p>仕事量が年々増えてじっくり考えることができないこと</p>
<p>仕事量が年々増加しているのに人員は減る、1人1人の負担があまりにも大きい</p>
<p>仕事量が不公平</p>
<p>仕事量が不公平だと感じた時に不満を感じる</p>
<p>仕事量が不公平なこと</p>
<p>仕事量にみあった人員配置がされていない。そのため、慢性的な残業が続いていること。</p>
<p>仕事量のアンバランス、精神的負担の大きさ</p>
<p>仕事量の違い</p>
<p>仕事量の差</p>
<p>仕事量の多さ</p>
<p>仕事量の多さに疲れきっている時</p>
<p>仕事量の多さを感じる時</p>
<p>仕事量の配分がどうみても均等ではないと感じる時。</p>

仕事量の比重が他の保健師より多く感じた時。判断が自分でつかずに実施している時。
仕事量の不均等
仕事量の不均等さを感じる時
仕事量や質が自分にみあっていないと感じたとき。他機関との連携が必要なのに、連携をとるのが困難なとき。
仕事量や内容、負担に差を感じる時
仕方のないことではあるが、気性のほげしい高齢者が窓口に来られた時などに、理不尽に恐られる時。
仕方のないことではあるが施設管理も含め雑用も多い。又突発な相談があって時間も費やしてしまい、自分の思うようにスタッフへの配慮が欠けてしまうこと。例えば、記録をすぐに読んで返せない、事業計画についてカンファレンスを開催したり、事例検討をしたいと計画を考えていても、それができなくなってしまう
使えない職員が多い。何をしても差別が多い。(きまりごとがいつもあいまい)
子どもの不登校、家庭内暴力等どうしようもなくなってきたら相談にこられることが多い。もっと早く発見等かなぐり捨てて、手を打つことができなかったかと税をおこりたくなる時
子育てとの両立が難しく、十分に仕事ができない。仕事の業務をこなす時間が足りない。
子育てと仕事の両立でいっぱい忙しい時です。仕事面では、負担を軽減してもらっていて、助かっているということしか考えられません。仕事に不満を持つほど、仕事はしていないと思います。
子育ての仕事の両立が困難を感じる時
子育て係(母子)と違いあんしんすこやか係は、幅広い知識と情報、関係機関との連携で成人から老人までの対応を必要とされ感染症は即時の対応、老人は介護保険サービス外からの予防等々、実施、評価及び対策までつなげるには予算、人的にも不足であるLPHNの役割の不明確がストレスとなる
子育て中でもあるので、思いっきり自分のペースで仕事をこなせないことが不満
子育て中なのに、仕事が切れないこと、誰も切っちゃいけない、休んじやいけない、拂っちゃいけないという訳ではないのだが、やらなくてはならない業務が多すぎて、こなせない、自分自身の問題だけではなく、決められている人員や業務量の問題(おいつめられている)もあると思うのですが…
子供がまだ小さいので思うところ(納得出来る場所)まで時間をかけて仕事が出来にくいところ
子供の保育園の送迎があるため突発的な残業ができないこと。残業ができず仕事がいつも遅れ気味であること
子供達に負担をかけていないかのみ
市(高齢者福祉課)に所属しているからと責任(の一切)をまかされそうになることが度々ある。
市が委託する、社会福祉事業で、なんとか利益をあげようとする(利益のことしか考えていない)委託先と遭遇するとき。またそのような委託先について、委託者とし、注意等を促す発言ができない時
市として、保健事業に対し先行きが、あいまいなこと。
市としての保健事業の方向性が示されないまま、仕事をしていますので、いつも行きあたりばったりの仕事をしているという気持ち強い
市などが大きくなると体制など決めるのは上部のちがう機関になったりするので実際に働いている者の声ははんえいされにくい
市の施策として決定しておきながら、当該の管理者達が関心もないし理解しようせず現場担当者が業務を遂行するのに困難な状態があった、再度に渡り、資料やまとめ等も提出(WOでの話)していったがとても空しい思いをした
市の事業なのに私1人内容を企画・決定しなくてはならないことも多く、不安で困ることがある。
市の組織体制の問題について(保健事業を行っている部局が2つ(保健福祉局と市民生活局)に分かれており、市民生活局にいるため、保健福祉局の情報などが伝わりにくい、活動もしづらい、又、相談体制も市民生活局にはない)
市の体制のおかげで、自分の業務が、スムーズに行かないとき。本来の業務でないと思っている職員に対して研修をしたりしなければならない時。(成果が得られない)
市会議員など権力をつけて、こられる時
市全体の方向性は基本構想等で示されるが、各課各レベルとなかなか業務や活動の目標が見いだせない。総論(基本構想)はまとまるが各論(各課における具体的な目標設定)は、あまりはっきり示されることもなく、又、担当者がかかわれば目標もかわってくる、という状況で一貫性がない。
市町村PHNは、新陳代謝がない為、役割が決まってしまう。
市町村は、上司が、専門職ではないので、なかなか理解が得られなかったり、何かあるとすぐ専門職まかせにされる 事務部門でできるところはかなりあるはずだが、
市町村合併(編入)ありきで話がすすんでいるため仕事に力が入らなく、仕事をしていても充実感がない。自分自身への不満です
市町村合併により、地域や業務がかわってしまう。
市町村合併に関する業務が非常に増えている。
市町村保健師がどのような所帯になっていくのが不透明、市としてどのようなカラー出していくか課内での検討が必要では
市町村保健師としての限界(細かいことというより、もっと、根本的な問題。)
市民から、苦情を言われる時。(福祉的な立場の保健師として)
市民が頭ごなしに苦情を言ってくる時。
市民とこちらの意識のズレ、わかかっていても動けない現状
市民に、迅速に対応できない時、自分の知識のなさや経験の浅さに腹が立つことがある。知らないことで仕事の能率が遅くなる。
市民に対する保健師の数が他市に比べると少ないように思うので一人当たりの仕事量が多いように感じる。普段は仕事にやりがいを感じているが、もっとじっくり一つの事例や事業を考えたいと思うと、今の仕事量では時間的余裕がない。帰宅後も、最近では仕事のことを考えてしまい、ややストレスを感じている。
市民のために大切と思う仕事、効果的と思うもの以外の事を上司からおしつけられた時
市民の苦情対応時に感じる時がある。自分の仕事量が他者より多いのではと感じる時がある。
市民の人から「やっぱ、役所って〇〇ですよな…」等と言われた時。自分でも改善した方がいいなと思うことも、民間と比較すると改善に時間を要する。公的な仕事なので、自分勝手にやると周りに大きな迷惑を掛けてしまい、すぐに責任問題になる。前例がないことをするのは、勇気がいるし、上司の了解も取りづらい。最近、そういう面倒なことをする位なら、今、目の前にあることを着実にこなした方がいいのかなあ〜と消極的になってきた自分自身にも不満が募る。
市民の生活や、介護の事に、充分に相談に乗ることができなさと感じた時。
市民の方からの困った相談に対して法律上や社会資源上その他種々の事情から充分に対応ができなかった時、現在している仕事を体系化したり組織化していくことができない、専門職としての自分の能力が不足していると感じる時
市民主体の活動の実践をしたいが行政主導型になってしまっていること。
思いが上手く伝わらない。
思いつかない。
思いつきません。
思い浮かばない
思い浮かばない…持たないです。
思うような協力が得られないとき 無責任に仕事をまかされたとき
思うように(段取りを想定していた通りに)進まない時
思うようにできないことがあること
思うように協力、支援がとれなくて業務がすすまない時、自分や保内の評価が上がらなさと感じる時、予期せぬ仕事でた時(上からおいてくる)
思うように仕事がかたずかないこと
思うように仕事すすまない(自分の能力不足)
思うように仕事ができない時(急な仕事が入ったり、保健師以外の業務が増えたりした時)
思うように仕事がかたずかためこんでしまった時(自分はこの仕事に向いていないのでは…と考えてしまう)
思うように仕事がかたずかない時に不満を感じる
思うように仕事が進まず、いろんな仕事がかたずか、気持ちの中にたまってしまいう時。
思うように仕事が進まず、自分の能力不足を感じる時。会議等、自分の意見に自信が持てない時。
思うように仕事の効率があがらず、うまくすすまない時(仕事に不満というより、自分の能力に不満を感じる。)
思うように事がすすまない時
思うように自分の仕事が進まない時。
思う様になかなかうまく聞かれない時
思う様に計画的に自分のやろうとしている仕事すすめられない時。
思う様に仕事ができなかったり、何をしているのか、自分の考えていたPHN像はこれだったのか本当に住民や地域の方々のために役に立っているかわからなくなる時がある。その様な時、自分の仕事への不満ではなく、自分への不満を持つことがある
思ったとおりにすすめる事ができない(自分の能力不足のため)

思ったようにスムーズに話ができなかった時
思ったように仕事をすすめられないとき。(緊急の仕事が入った時など)
思ったように物事がすすまない時
思ったように物事がすすまなかった時(自分の力量不足を感じる)
思った様に他職種との役割分担がすすまなかったり、他部署の職員との意思疎通がうまくいかないこと。
思考の交換を求められる時代であり、一時期悩む事はあるが、不満と感じた事はない。
指示ばかりされるとき。意味がないと思われる会議に出るとき。
指示命令系統が、機能しにくいところがある。
支援センターとして本来業務のできるような体制にしてほしい
支援困難なケースにあたった時、どう対応していいかわからない、他の人からの意見を聞いて参考にもさせてもらっているが、力不足を感じる。
支所に1人しか保健師がいないので、緊急時の対応に困る。(ex どう判断すればいいのか迷う時、1人で訪問するのに危険を感じる時など)
施設内の相談業務は他の職種で充分と思う
私、1人だけではないが、1人が担当する仕事量が多く、細かなところまでの心配りができない、複数での研修会へ参加が、ほとんどできず、課内での伝達になるがうまく伝えることができない
私1人では判断、解決できない事を、私1人に対して、その場ですぐに答えを求められる時。
私の仕事は、その人がその人らしく生きることや、健康で自立した生活をしていくための支援活動である。例えば、道路や建物などは1〜2年で形ができ、成果が目に見える。人にかかわっている私達は、(人間のことは)5年、10年、あるいは20年(もしくはもっと)かけて、やっと成果が少し出ることが多いように思います。すぐ数や形でみえない仕事の内容や仕事の質について、なかなか同じ行政機関でも理解していただくのは難しいように感じています。近年、増々多様化した価値観に適切に対応してゆくことは、とてもたいへんなことです。実績数も大切だろうが、質の低下をまねくような働き方はしたくない
私の町のように小さな自治体では、専門知識を持つ人材が不足しており、家族マネジメントが必要だったり、老人、子ども、障害者があるケースなどは何でも保健師に押しつけられることが多いです。ケースワーカー、児童福祉司、家庭相談員等々の役割をもたされ、まさに何でも屋といった感じで、きちんと相談にのれるだけの技量を持った上司も多くありません。うまく仕事を押しつけられている感じがするとき嫌になります。(結局は保健師自身が自らの専門性をきちんと意識していないために、周囲を納得させられないのだとは思いますが…)
私の部署は市民からの相談をうけるために福祉事務所に設けられ、本来は相談の中でも保健の分野を中心にということ保健師が配置されています。しかし、実際は、高齢者から児童までいろいろなサービスの申請受理のみにおわってしまっ、相談にのれないこともあります。そんな時には、大変シレンマを感じます。時間外勤務の有無で仕事の重要性や困難さを判断されるようなところがあり、時間外に他の係の業務(一般事務)を行うように言われたこともあります。今の部署において自分が存在してよいのかどうかいつも悩んでいます
私自身の問題だと思っているが仕事の優先を考えている中で、個別支援に時間をかけられない
私生活に影響すると思われる。時間的余裕のなさ等
私生活とのバランスがとりにくく、私生活のストレスが仕事に仕事に私生活に私生活に影響しているように感じる。自分1人が自分の職責にすぎた責任を伴う業務がある 抱え込んでいる気がしてゆううつだし不安だし不満です。
私生活の都合で相手から仕事をふられたとき。
私自身がどこまで自分の仕事を達成しようとしているか、仕事に対する、自身の意識が低い、周囲の仲間を見てもそう感じ、どうしていきか不満という私達の向いている方向。
私的な時間のゆうずうがきかない為(子育て、家事など)現時点では仕事に全力を注げないこと。
資格を利用された強制休日出勤 専門職でありながら、雑務(教護、各種日直)などに当たった時
資料の収集や分析をする時間が持てないこと
事業、訪問等で、PHNが出はらっている時、相談相手がいらない
事業がたてこみ、時間外に仕事をすることが多い時。健診等による事務作業が重なった時。
事業が広すぎて自分の担当の範囲までできない。
事業が集中する時期とそうでない時期がある 自分の企画運営する事業がない時期は定例事業や他の人の事業の手伝いの業務になるためはりあがない
事業が重なり、充分な準備ができない自分に不満を感じる
事業が重なりすぎて準備が十分にできなかった時
事業が増え、全体的に仕事量も増えるため地区活動ができない
事業が増えたり、計画を策定するなど、業務が増えでも係員の人数変わらない事業について、じっくり検討評価ができないまま、すすんでいく感じがします。余裕がない
事業が多くてこなすことが大変。中途半端になってしまうこともある。
事業が多すぎて、まとまりにかけられないかと感じた時
事業が入り、地区の活動がなかなかできないので、人員が欲しい。
事業ごとに担当が決まってい「担当の仕事は、担当の仕事」という「他人ごと」に考えている面が自分もふくめて多々ある。カンファレンスを通しての話し合いを月に2回は実施して、その際は活発な意見交換が行われるが通常の業務の際になると、それぞれの業務に追われてしまい中々策定されていない。
事業などを計画通りにすすめることができない時など、自分自身の未熟さに対して不満
事業におわれ、ゆっくりに地区診断、分析等が業務時間内にとれない時。
事業におわれる毎日で、残業も認められず…よく考えて仕事をすすめる機会が少ない
事業についてまとめる時間がとれない時
事業に追われ、やるべきことがおろそかになっていることを感じる。
事業に追われ個別事例の時間が思うようにとれない
事業の運営にあたり上司、同僚の理解が得にくい時
事業の企画や準備に追われ、事業が1つ1つ終わっても、ふり返ったり、まとめたりすることがなかなかできない
事業の企画や他機関との調整が非常に重要であるのは日々の業務の中で痛切に感じますが、これらの能力を習得していくための方法が具体的に示されていないため、自分自身も含め保健師業務全体のレベルをどう向上させていけばいいか悩んでいます。このような思いを身近な立場の職員(上司)に理解してもらえない時に不満を感じます
事業の企画運営をどうしてよいかわからない。住民と聞いていきたいが、効果的な方法がわからない。先輩PHNにどう質問してよいのか(何を質問したらいいのか)わからない
事業の計画、まとめをする場合、報告書や意見の提出が期限を守って提出されないこと
事業の計画や運営が、自分の考えていたようにスムーズにいかない時不満を持ちます。
事業の検討の時に上司から「自分が在職している間には変更しないので、今までやってきたことの改善が思うようにすすまない時。
事業の見直しをしても、予算や、他職種との連携上、変化できずに、流れてしまう時がある。
事業の効果がわかるような評価を行っていないこと、感じとしては把握できて満足してしまっている点。(個への関わりはまずとして、事業への取り組みに力不足の自分自身への不満でもあります)
事業の効果が現れるには時間がかかることが多く、本当に自分が行ったことが意味のあるものであったのだろうか、と悩む時が多い。
事業の実施におわれているところもあり、担当校の管理が、十分にできない 少しでもケースにかかわっていきたくは思っているが、時間的に無理なこともある。所属の人員配置や担当業務のふり分けを考えてもらいたいと思う。
事業の実施と一緒に働いている人の身分のあつかいが決定ありきでおろされてること 本庁各課の横の調整なくそれぞれの事業がおろされてること 方針や重点事項に統一性がみられないこと
事業の実施や企画、評価等において思うようにリーダーシップがとれない時、自分自身に不満がある。仕事の内容については立場でやらなければならないと了解している
事業の主要業務がたえまなく続く時、緊張感が長くつづくことで、くたばれる。
事業の重要性を訴えても、それが伝わらず、同じスタンスで実施できない時、明らかに自分より仕事をしていない人が、自分より多く給与をもらっていること。
事業の必要性を感じないが、それを実施しなければならない事、またこの職種は本当に必要なものなのかと思うと自信がなくなる。
事業の評価が具体的にできない時。
事業の方向性や問題点、各自のキャリア(ここ数年どんな職務についていたか等)あまり考慮されていないような人事配置のため、不満を感じる
事業の方法に対する改善だけでなく、全体的にみた事業の改善もできたらと思っている。
事業の目的が達成できなかった時
事業の目的や内容を理解し合えないとき
事業の立案から評価という流れをよく理解されないまま、日頃の事業を行っている。何故この事業を行っているのか疑問をもつこともある これに関して指導や教えてもらいたいことはいっぱいあるのに、3年もやってきてるんだから分かるだろうと言ですまされてしまったこと上司に、基本的な教育を受けさせてほしいと思う。

事業ばかりの時間におわれ、地域活動(住民と一緒に活動)や家庭訪問の時間が足りない。ケース検討の時間もとれなくなっている。上司の保健師の考えによって、自分の保健活動が制限されたりする
事業は増えていくのに、人員が削減されること
事業や、その調整に関しての会議などが多く、個別フォロー、訪問活動の時間が少ないこと。事業の内容等検討する際、市(課)としての柱・方向性が見えにくいこと
事業や緊急に対応しなければならないケースなどが多く重なり、思うように対応できない時。
事業や事務に時間が割かれ、訪問にあてる時間が限られてしまうこと。
事業をこなしているだけで達成感を感じられない(大きな苦難はないけれども、これを自分でやったという満足感がない)
事業をこなすことにおわれ、保健師同士、調査研究をする時間や勉強会をすることも大切に思うが、時間がとれない。
事業をこなすので精一杯。きちんとした見直し、事業の評価ができない。
事業をしたあと処理がスムーズに出来ないことと、結果をふまえて次のステップに進んでいないこと、臨機は責任ある仕事が出来ない、残業も出来ない、ということでの分正職への負担が大きく大変 外からみると「人がいるではないか」と受け取れてしまう ボランティア残業当り前という感覚は好きでない。時間内で仕事が終るようにしたい！！
事業をすすめようと思っても、なかなかすぐに実行できないこと。新規事業等、人材、予算も確保した「条例が整備されていない」という理由で、実施できないことにはがゆさを感じる。実施しなければならない事業があり、期限も迫っているが、スタッフ間の調整がうまくいかず、スムーズに事が進行できないこと。
事業を回していくのに追われ、地区活動が十分に出来ない。
事業を行うにあたり、十分な検討時間(話し合)を持っていない時。事業を展開する上で従事者間で同一姿勢で取り組めていないと感じる時
事業を実施した後、参加者から、想像していた反応が帰ってこない時、どこが悪かったのかと反省する時、又、事業内容の計画をいろいろなパターンを想定してじっくり準備できない時
事業を実施しようとしてもあまり人が集まらない。
事業を出向して行っているため、住民のニーズには良いと思うが荷物の持ち運びが大変である
事業を新たに展開していくうえで、目的や経過について、説明、相談がないままにおろされ、人手が必要な時にだけ協力を求められること。
事業係の中で保健師としての能力の発揮について見通しがもてない
事業計画が立っていて、その事業を実施しなければならないのに、他の事務作業などが入って事業の準備等に十分時間をかけられなくなる
事業実施に対して予算内での実施に対して
事業実施後の評価を行うのが難しい。
事業数がとても多いのに、それに対応する保健師の人員配置が少ない
事業担当の交替など自分で納得していない時に交替を強いられる時
事業担当制になっていて、担当が自分しかいないため、定期的に忙しすぎることがあったり、判断つかない事が多いことがある。相談しても、「担当の考えで…」と言われることもあり、どうしたらよいのか迷うことがある。又、先輩がやっているのを見て学ぶ機会が少なく、自分の身についていくことがないと感じることがある。
事業等、自分の提案は通らず、他の人の提案で自分が中心になって事業等を進める時の理解のしにくさ、実施しにくさ
事業等について計画、検討の段階には参加しておらず、実施する段階になって急に事業への関与を求められた時
事業等の仕事に対して配置人員が少ないように感じる。ゆとりをもって仕事をしたい。
事業等を行っても成果があらわれないとき。
事業内容の見直しをしても、減らせない仕事がある。それは年々、積っていくので、人員の増はなくても仕事は、増える一方
事業評価
事業分担されていることもあり、担当一人が抱えてしまって、係全体の方針、問題として考える機会が少ない。前任者の行った事業に目的や効果を見い出せない。しかし、1年目で、慣れることで精一杯なので、余裕がないことにジレンマを感じる。仕事の引き継ぎも十分な4月からスタートとなり、現センター組織体制のものに怒りを感じていた。最近慣れてしまったが…。前任者の異動や退職、育休が重なり、現在の係には保健師1〜2年目のスタッフしか残っていないという偶然が重なってしまったがための、不運としかいえないのが…。幸い、地域リハビリモデル事業の取り組みがあり、業務補償法の考え方を学んで、大変だが、目的の明確化、評価が少しできる形になってきたので今後期待したいと思う
事業毎は実施しているが、全事業の関係が十分でない(できていない)事務処理に時間がとられる 訪問事業が昔と比べてきていない
事業量と勤務体制があていない。
事業量の割に保健師の数が少ないのに加え、今、1人退職してしまったため、来年度までその人の方まで業務をこなさなければならず、精神的な負担が大きい。・わりと課の中でも保健師の立場が弱いこと
事後評価をする時間がとれないこと
事務が困った時だけ専門職と仕事を任せて(強制的に)くるのに、自分たちの仕事は全く理解されない時。(上司に…。)
事前に相談もなく常勤職員が嘱託に変わってしまった時(人員削減される時)
事務、関連機関等の連携不足
事務がたかさんになり訪問活動等ができなくなったとき
事務が増えて、住民のもとへなかなか出向けなくなっていること。
事務が増えて、住民のもとへなかなか出向けなくなっていること。
事務が多い
事務が多い。保健師としての活動が少ない。
事務が多く、住民と接する機会が減っている
事務が多くて、地域活動が思うようにできない
事務が多く保健業務に専念できない
事務が多く毎日、仕事に追われている
事務が中心な業務となり直接住民に接する機会が乏しい
事務サイドのスタッフと新規事業を考える時。目的が共有できない。(ケースを通しての話は、実際一緒に行動するため理解されやすいが、事業になると連携は難い。)
事務との連携が必要なのに、事務が自分は関係ないと思いつつスムーズに行かない時
事務と専門職のはざまでの専門性を発揮できない時
事務と保健事業の時間的な不均衡 人員に見合わない事業量の為、事業評価や他の保健事業の企画、準備が十分にできない。又、このような合間をぬって事務を執る為、突然の相談や打合わせ、会議等の用務が入ると、書類作成が円滑にできない場合がある
事務に追われ、考え(仕事)をじっくりと検討できない
事務に追われている気がする 調査ものが多い
事務に追われるとき 業務の効果が目に見えない 評価が難しい(目的があいまい)
事務に追われる時
事務の仕事がたまる
事務の仕事が増えることへの不安、不担
事務の仕事が多いこと
事務の仕事が多く、保健師としての業務ができない時 自分の感じたことを事業に生かせない時(予算的なこと、人員の不足等の問題で、事業内容を充実したもの出来ない時など)
事務の仕事などが多くなった時、訪問に行く回数が少なくなってしまう事。
事務の仕事におわれて従来の仕事ができないこと。
事務の仕事ばかりたくさんある時
事務の上司などに「専門的なことは専門家(保健師)で！」と何でも押しつけられた時。前向きと一緒に取り組んで欲しい。事業評価や予算作成は、担当保健師がすべきだと思うが、庶務がすべきことまで、させられた時。ただでさえ、多忙なのに。
事務も仕事の一部だと理解しているが、事務におわれることが多いように感じる時。
事務や、市町村の上役が保健に関して全く理解していないこと。
事務やケースワーク業務の仕事が中心で、不満。介護保険や高齢者に接する中心的な課にないが、保健師として地域を診断したり、予防の観点からの関わり等やるべき仕事があると思うのに、それは求められていない現実もつらい。
事務や認定調査の仕事だけなので、保健師としてやりがいを感じない。
事務や福祉の仕事で、保健師の業務の範囲としてどのようにやっていけばよいかわからなくなることが多い
事務をしているために、事業に十分な時間をかけて準備ができないこと

事務を含めて業務量がどう考えても多すぎる。自分は要領良くこなすタイプではないので、毎日遅くまでの残業、持ち帰り仕事、休日出勤で、何とかこなせているが、仕事しか頭にない生活に疲れを感じる。プライベートを楽しむゆとりがなく、仕事を続けていくことに意欲が出ない。うつになりそうです。
事務員のいない職場で、事務について適切な指導してくれる人がいない
事務官との考え方にギャップを感じる時 同じ専門職でも立場のちがいが感覚の相違が生じわかりあえない時
事務系(通知、報告書等)が大切なことはわかってはいるが、多すぎるように感じる。そのための時間を訪問や事業充実のために使いたいと感じることがある。
事務系は技術職について理解がなく、たて割りの考え方がぬけず罵詈雑言などにさらわれ必要な連携がとりにくいこと。
事務作業(発送準備や、日程調整等)が多く外に出て住民と関わったりと保健師としての業務が少なくなりましたこと。事務者の協力がうすいこと
事務作業、処理におわれて、本来の仕事(訪問や問題分析etc)ができない。
事務作業が増えていくこと
事務作業が多いと感じる時
事務作業で、本来の仕事ができない時
事務作業で本来の仕事ができない時
事務作業に追われ、本来行うべき地区把握や住民との対話、訪問、事業評価等を行う時間がなかなか持てないこと。それが行えないがゆえに、毎年事業をこなすだけに終わり、はたして住民のためになっているのか等疑問を持ちながら事業に取り組んでいるように感じる。
事務作業に追われている
事務作業に追われているとき
事務作業や会議に時間をとられ、保健師としての仕事(相談、訪問、ケースワークなど)をしていない時。
事務作業や保健師業務以外の仕事が多い。
事務仕事ははんだつた時
事務仕事がややこしいと思うことがある
事務仕事が多い(請求書の処理など)
事務仕事が多い。
事務仕事が多いこと。(事務職員が行う業務)
事務仕事が多い時
事務仕事が多く、いつも事務仕事に追われている。
事務仕事が多く、本来の保健師の仕事が出来ない事
事務仕事が多くて、余裕を持ってない時。
事務仕事が多すぎて、本来の仕事があまりできない。職員1人1人の担当業務が多く、分担のしようがない。
事務仕事が多すぎること、保健の仕事が役所内でなかなか認められないこと
事務仕事に追われて専門職として働けていないと感じるとき。
事務仕事の量が増え、訪問に行く回数が減りつつあること、うまく他職種と連携し、保健師としての専門性を発揮できるような職場になれば良いと考えます
事務仕事ばかりがたまってしまい、市民の方々と接する時間がもてない状況になった時。
事務処理、業務が多く、もっと住民との関わり時間に時間をかける業務をしたい。
事務処理から専門的活動まで全てこなすべきだと強制される時。
事務処理が思うよう進まない時。私自身の能力不足なのですが、訪問等地域とかかわる時間的、精神的余裕が持てなくなってしまう。
事務処理が増え、地区活動ができない事
事務処理が増え現場に出る時間や、事業実施のための資料作成、準備の時間が少なくなること。
事務処理が多いこと、事業のあとの報告書etc...の記入がうとうしい
事務処理が多く、全体事業をみずえる時間が不足
事務処理が多く、地域活動をする機会が少ない 事務処理の中で複数のファイル等と同じ内容を記入しなければならない手間がある。
事務処理が多く、保健師としての専門を生かした業務が少なく経験不足を感じる
事務処理が中心で介護予防活動等までできない事
事務処理が非常に多くなった時
事務処理など、デスクワークが多く、家庭訪問など、住民の生活に触れる時間が少なくなってしまう。
事務処理にかかる時間が長い
事務処理に終了する時
事務処理に追われ、現場の仕事に集中できない時 県や国の方針に納得いかないまま仕事をしなければならないとき
事務処理に追われているとき
事務処理に追われて本来の保健師業務がおろそかになってしまうこと。
事務処理や事業に追われ、個別援助ができない時。
事務処理や電話対応に追われ、自分の仕事に集中できない時。
事務処理を積極的に行っている所が、評価されない所。
事務処理主体の部署に配置され日々の業務量が多いにもかかわらず、介護相談～その後のフォロー(他機関への連携等)のケースワークも増えているため仕事量や役割分担を考慮した人事配置の見直しをしてほしい
事務所に、専門職(PHN、栄養士)のみの配置で、事務職がならず、保健事業事務(支払い業務も含む)すべてを行わなければならない、事務手続きの期限におわれ、かかわりやすいケースにじっくりと関われないことがあり、専門職としての仕事にも少し集中して行きたい。保健事業も深めて行きたい。
事務職がPHNの役割等を理解していない。公務員だからと言って、一般事務をして当然だと思っている。それによって、本来のPHNの仕事ができないことがある。
事務職がいなかったため専門業務以外の処理に時間をとられること。
事務職がいなくなった為、事務をする時間が長くなり保健師としての業務への時間が以前に比べて、かなり少なくなってきたこと
事務職が十分な仕事をしてくれない
事務職が少なく、事務的なことも多い
事務職が人的にも時間的にも優遇されているのに比べ、保健師は少数で便利屋的に使われている時
事務職が必要性が低いと思われる事業でも、補助事業であれば採用し、保健師が実施させられる(?)こと
事務職である上司の理解が得られない時。(保健や健康の事業の評価など短期間にこれを実施したからこの効果があったという状況は出にくいものである 住民自らが突進していくまでの課程等がややもするとまどろく感じられるようである。)自分自身の力量不足を痛感して自信を無くすこともある
事務職でもできる仕事をしている時
事務職としての仕事も求められるが、自分にその能力が充分に備っていないと感じる。しかし、それを求められる立場になってしまった。ということに不満というよりも不安を感じる
事務職との対立。仕事を理解してもらえない点。保健という立場についてわかり合えない方が数多くいること。
事務職との分担がうまくできない時
事務職と専門職の連携。いくら保健師としてよい技術、知識を生かして業務を行ったとしてもそれを上司の事務職が、きちんと理解でき、正しく評価できているのかということはいくらく疑問である。又、事務職を減らした分を"何でも屋"のように雑用まで保健師にさせないでほしい。健康支援の業務は事務職が替わってできないくせに!!
事務職と同じ様に他の課に異動し他の業務(福祉や回復)のシステムを学べないこと 特に若いうちに異動し多くのことを経験したい、そしてそれをまた自分の専門に生かしていきたい 今は問題が多様化し健康問題だけでは解決困難な事例が多い。差益には経済的問題が多い
事務職と比べいつも多忙であると感ずること。この仕事には終わりなく追いつかれていく感じがすること。
事務職と比べいつも多忙であると感ずること。この仕事には終わりなく追いつかれていく感じがすること。
事務職など他の職種に保健師の思いが伝わらないとき
事務職など他の職種の方に、我々の仕事について理解を得られていないと感じた時。自分が企画した案が、却下された時。
事務職にくらべ給料や手当が低いこと
事務職に対して自分自信がどこまでたのんでよいか悩み、不満にも思う
事務職に保健事業の業務を理解してもらえない時、ソフト面での事業となると、財政的なものもあるため、決裁がとれにくい事
事務職に理解してもらえない
事務職のように目に見えて仕事内容が理解してもらえない時。対応困難事例に接している時の精神的な苦痛を事務職である上司に理解してもらえない時